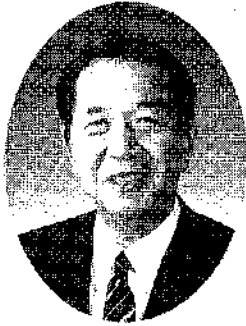


**50th**  
**ANNIVERSARY**

**50年のあゆみ**

川崎市青少年育成連盟



## 創立50周年に寄せて

川崎市長 高橋 清

このたび川崎市青少年育成連盟が創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げますと共に、この50年間、貴連盟の発展に努めてこられました歴代の理事長さんをはじめ、役員の皆様のご尽力に対しまして、深く敬意を表します。

貴連盟が創立された50年前と申しますと、戦後の混乱が未だおさまっていない時代であり、貧困と荒廃が当然の社会状況で、子どもたちは心の拠り所を求めていたことと思います。そのような中であって、青少年の社会生活の向上をめざし、育成者のみなさま方が手を携えて、貴連盟の前身である青少年補導連盟を結成され、次代を担う子どもたちの健全育成に尽力された功績は、計り知れないものがあります。

さて、50年を経た今日、社会の情勢は大きく変貌し、物質的には大変豊かになった反面、心の貧しさが指摘されております。そして、家族関係、近隣の人間関係の変化は子どもたちに、いじめや自殺等様々な問題をもたらしました。今こそ家庭、学校、そして、地域が一丸となって、子どもたちを明るい未来へと導かなければなりません。

子どもたちが、人間愛につつまれながら、21世紀を担う社会の一員としてたくましく育つことは、私たち大人に課せられた責任であり、その意味で貴連盟が果たす役割は、今後ますます重要になってまいると考えます。

川崎市青少年育成連盟の皆様方が、創立50周年を機に、青少年の健全育成により一層ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴連盟の今後ますますのご発展と皆様方のご健康を祈念して、お祝いのことばといたします。



## 50周年誌発刊にあたって

川崎市青少年育成連盟

理事長 布川光明

川崎市青少年育成連盟は、その前身である青少年補導連盟として発足してから、50年を迎えました。

これも、ひとえに、市・教育委員会をはじめとして、関係団体や市民のみなさんの温かいご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、平成8年5月24日の第1回理事・評議員会において、創立50周年記念事業の実施が正式に決定いたしました。

平成8年10月には、5月に新しく川崎市の友好都市となった沖縄県那覇市を理事の方々等25名で訪問し、那覇市の教育機関を視察するとともに、当地の青少年団体の指導者の方々と友好を深めてまいりました。

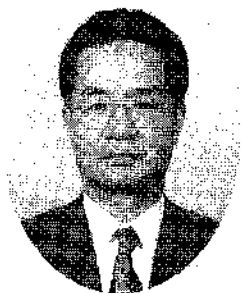
また、11月22日から24日まで、川崎市青少年の家において、子ども合同キャンプ兼子どもサミットを開催いたしました。過去、県外交流研修事業にて訪問した清水市・佐野市・船橋市・八王子市から指導者と青少年を招き、川崎市の指導者と中高生とをあわせて、約100名が参加したこのイベントでは、各都市の方々と友情の絆を強くするとともに、子どもたちが理想とする青少年施設のあり方を考えました。

本年度は、視察研修、合同キャンプ、記念式典の開催、記念誌の発行等の諸行事を、加盟団体である子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、海洋少年団のいずれかの団体が担当し、他の団体が協力しながら進めてまいりました。また、適宜50周年の冠を付けた事業を開催し、青少年育成連盟としての結束を強めております。

さて、21世紀に向けて青少年団体はいかに活動を展開していくべきかは、私どもの大きな課題でございますが、研修・研鑽のうえ、一層の躍進をめざし、努力してまいりたいと思います。

行政当局をはじめ、関係諸氏におかれましては、今後ともよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願いいたします。

おわりに、みなさまのますますのご発展とご健勝を願ひまして、ご挨拶とさせていただきます。



## 創立50周年を記念して

川崎市教育委員会

教育長 小机 實

川崎市青少年育成連盟の皆さん、創立50周年おめでとうございます。

貴連盟は、昭和21年10月4日、戦後の動乱期の中に青少年の社会生活向上と家庭・学校・職場・社会等の連携協力をかかげて発足した、青少年補導連盟を前身としています。以来、何度かの改革を経ながら、50年にわたり、青少年の健全育成に努められ、今日の発展・充実をみるに至りました。この間の育成者、リーダーの方々のご努力に敬意を表するとともに、感謝を申し上げます。

青少年育成連盟は子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、海洋少年団で組織され、各団体の特色を生かしながら緊密な連携・協調の中で、青少年の育成にあたっておられますが、このような組織は全国的にもめずらしく、今後の青少年団体のあり方を示すひとつの指針となっております。

私たちは、3年後に、新世紀を迎えますが、青少年を取り巻く環境は決して良いものとはいえません。マルチ・メディア時代が到来し、私たちの生活は大変便利になりましたが、ともすると大切な人間性を失いがちです。また、高齢化社会では他人へのおもいやりが必要です。時代の荒波にもめげない、たくましさや優しさをもった青少年の育成が求められております。そして、これからの青少年の健全育成のためには、家庭・学校・地域社会の連携のもとで、地域の教育力の充実がますます求められてくるものと思われまます。こうした状況の中で青少年の育成に中心的な役割を果たしてこられた貴連盟に対する期待は大変高まっております。

創立50周年を機に、青少年育成連盟の皆様が、青少年団体そして地域関係団体の先駆者として青少年の健全育成に、より一層ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、貴連盟のますますのご発展と皆様方のご健勝を願ひましてお祝いのことばといたします。



## 50周年に寄せて

川崎市議会議員

小島 一也

川崎市青少年育成連盟が、創立50周年を迎えられたことを、心からお祝いを申し上げます。

貴連盟は、昭和21年戦後の混乱期、人々が生活していくのに精一杯の中、青少年の社会生活向上のためにと学校・町内会・事業所の代表者の皆様が中心となり川崎市青少年補導連盟を結成されました。

以来、50年の歴史の中、幾多の困難に遭遇されながらも、青少年育成のために活動を推進され、この間、社会の変化に対応するために幾度か改革もされてこられました。

現在は、子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、海洋少年団の4つの少年団体で構成され、設置目的・組織などが、異なっているものの少年少女の健全な育成という共通目標のもと、団体が一体となって活動を展開され、今日では、川崎市を代表する青少年団体として、すばらしい活躍をされております。

主に、地域における青少年の健全育成・国際交流の促進・仲間づくり事業の推進など、家庭・学校・職場及び地域社会と連携され実践的で活力ある青少年育成活動に励まれ、今日を迎えられたことは、誠に喜ばしいかぎりであります。これは、ひとえに歴代理事長をはじめとする役員・関係者の皆様の青少年に対する深い愛情と情熱、そして、地域の皆様方の温かいご理解・ご協力の賜と深く感謝と敬意を表する次第であります。

さて、21世紀を間近に控え、国際化・情報化など社会は大きく変貌しています。このような中、青少年を取り巻く社会・教育環境をめぐって、様々な課題や問題がなげかけられております。

本年7月、中央教育審議会から「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」と題して、子どもに「生きる力」と「ゆとり」をと提言が出され、青少年に対する広い視野と時代を生き抜く力の養成がより一層求められました。

希望に満ちた新しい時代を築くのは、青少年であります。その青少年が、心豊かで心身ともに健全な社会人として育っていくことは、私たち大人の責務であり、その意味からも貴連盟の果たす役割は重要であり、ますます高まることと存じます。

私たち市議会も21世紀の“担い手”である青少年が、健康で心豊かな感性に富んだ社会人として育つための環境づくりに、最大の努力を重ねる所存であります。

貴連盟の皆様には、創立50周年を契機に、青少年の健全な育成のためにより一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、さらなるご発展と関係各位のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。

# 目 次

50周年誌発刊にあたって .....	川崎市青少年育成連盟理事長 布川光明	
創立50周年に寄せて .....	川崎市市長 高橋清	
50周年に寄せて .....	川崎市議会議長 小島一也	
創立50周年を記念して .....	川崎市教育委員会教育長 小机實	
1. 50年の歩み .....		1
(1) 年表 .....		1
(2) あしどり .....		3
2. 青少年育成連盟役員名簿 .....		6
3. 青少年育成連盟規約 .....		19
4. 団体長さん、こんにちは — インタビュー — .....		22
5. 各青少年団体のあゆみ .....		25
(1) 子ども会のあゆみ .....		25
(2) ボーイスカウトのあゆみ .....		42
(3) ガールスカウトのあゆみ .....		57
(4) 海洋少年団のあゆみ .....		65
6. 未来のわたし .....		71
7. 50周年記念事業の記録 .....		76
(1) 那覇市視察研修 .....		76
(2) 子ども合同キャンプ兼子どもサミット .....		79
(3) 記念式典次第 .....		81
8. 表彰状・感謝状受賞者名簿 .....		82
9. さくら会の発足 .....		83
編集後記 .....		84



# 1. 50年の歩み

## (1) 年 表

昭和21年	10月4日、川崎市青少年補導連盟誕生。
昭和22年	各地域に児童愛護班誕生。ボランティアリーダーによる子供会活動発生。
昭和24年	川崎市連合子供会発足。児童相談所との関係が切れる。
昭和25年	昭和25年の改革（補導面から福祉面重点へ）。ボランティア子供会・児童愛護班を組織に入れる。
昭和26年	昭和26年の改革。各支部に指導員及び補導員を置き、生活指導を行なう。
昭和27年	昭和27年の改革。理事長が市長金刺不二太郎氏より風巻義雄教育委員長へ。川崎市校外生活指導会・川崎市子供会連盟・川崎市青年団連盟・日本ボーイスカウト・ガールスカウト川崎地区委員会の5団体をもって組織される。 専任の指導員2名採用。グリーンハウス金沢文庫に開設。
昭和28年	子供劇場「泥かぶら」公演、1日3回7日間の公演、1万数千人の児童生徒に大きな感銘を与えた。
昭和29年	川崎市校外生活指導会が脱会、かわって南部地区青年団体連絡協議会が加盟。
昭和35年	10月30日、10周年記念行事を川崎競輪場にて開催。青少年教育係新設。
昭和37年	理事長が風巻義雄氏より吉水智承教育委員長へ。
昭和39年	川崎青年団体連絡協議会加盟。
昭和40年	4月、川崎市青少年補導連盟より川崎市青少年育成連盟と改称。理事・青年指導者県外視察行われる。
昭和41年	川崎海洋少年団加盟。
昭和44年	理事長が吉水智承氏より長田清道教育委員長へ。
昭和46年	10月3日、25周年記念行事を高津公民館にて開催。
昭和47年	第7回神奈川県青年文化祭にて受賞（機関紙の部）。
昭和48年	少年団体指導者養成研修基準及び同認定基準の策定。
昭和49年	理事長が長田清道氏より立花勝夫教育委員長へ。規約改正により団体代表の副理事長を置く。青少年教育係から青少年教育課へ。
昭和50年	神奈川県青少年問題協議会設置25周年、神奈川県青少年育成功労者（団体）として県知事賞受賞。
昭和51年	10月30日、30周年記念式典を産業文化会館にて開催。
昭和52年	8月27日～28日、川崎市八ヶ岳少年自然の家（オープン8月20日）役員視察研修。
昭和53年	10月27～28日、役員県外視察研修（仙台市）。
昭和54年	8月24日～25日 “ “ （愛知県）。
昭和55年	理事長が立花勝夫氏より中野貴司教育委員長へ。
昭和56年	育成連盟35周年記念表彰。 理事長が中野貴司氏より菅野芳彦教育委員長へ。

- 昭和56年 6月5日～6日、役員県外視察研修（茨城県）。
- 昭和57年 理事長が菅野芳彦氏より尾村偉久教育委員長へ。  
9月24日～25日、役員県外視察研修（栃木県）。
- 昭和59年 理事長が尾村偉久氏より増子正宏教育委員長へ。  
4月13日～14日、役員県外視察研修（静岡県）。
- 昭和60年 9月18日～19日、 ” （福島県）。
- 昭和61年 2月15日、青少年育成連盟中・高校生部会発会式を会館とどろきにて実施。  
9月23日～24日、役員県外視察研修（静岡県）。
- 昭和62年 3月22日、40周年記念式典を会館とどろきにて開催。  
12月22日～23日、役員県外視察（三島市立箱根の里）。
- 昭和63年 2月12日～13日、 ” （大房岬少年自然の家）。
- 平成元年 2月4日～5日、 ” （国立中央青年の家）。
- 平成2年 6月1日、エポックなかはらに青少年育成連盟事務室を設置。  
11月16日～29日、育成連盟45周年記念海外派遣研修 リエカ市訪問。
- 平成3年 3月27日～28日、役員県外視察（長野県高遠少年自然の家）。  
理事長が増子正宏氏より佐近賢一教育委員長へ。  
11月13日～14日、役員県外視察（国立磐梯青年の家）。
- 平成4年 3月29日～31日、県外交流（沼津市）。  
9月には学校週5日制（第2土曜日）スタート
- 平成5年 2月27日～28日、役員県外視察（八ヶ岳少年自然の家、藤沢市八ツ岳野外体験教室）  
3月31日～4月2日、県外交流（清水市少年自然の家）  
理事長が佐近賢一氏より佐藤博麿教育委員長へ  
9月14日～15日、役員県外視察（東京臨海部青少年施設の視察）  
10月9日～11日、県外交流（栃木県佐野市）
- 平成6年 9月8日、国際家族年記念講演会  
テーマ「これからの家族を考える～男と女の共同参加」  
9月23日～24日、役員県外視察（横浜こども科学館、伊勢原市こども科学館、相模原市星が丘こどもセンター、宮が瀬ダム他）  
12月10日～11日、県外交流（船橋市立一宮少年自然の家）
- 平成7年 2月26日、役員市内視察研修 川崎市の新しい公共施設を訪れる。  
（川崎市総合科学高等学校、川崎市平和館、川崎市国際交流センター、川崎市市民ミュージアム）  
9月1日、講演会「いじめを考える～家庭と地域の役割～」  
10月25日、役員学習会 「地域教育会議と青少年団体のあり方」  
12月2日、役員研修 神奈川県、東京都の施設に学ぶ（神奈川県立「藤野芸術の家」  
「パルテノン多摩」）  
12月9日～10日、県外交流（八王子青年の家）



- 平成 8 年 4 月 1 日、理事長が佐藤博磨氏より伊藤忠男教育委員長へ  
 10 月 1 日、理事長が伊藤忠男氏より布川光明教育委員長へ
- 平成 8 年 10 月 17 日～19 日、育連 50 周年記念事業那覇市視察研修  
 11 月 22 日～24 日 “ 子ども合同キャンプ兼子どもサミット
- 平成 9 年 2 月 22 日、育連連盟 50 周年記念式典をエポックなかはらにて開催

## (2) あしどり

### ● 青少年補導連盟の誕生

昭和 21 年 10 月 4 日、戦後の動乱期の中に青少年の社会生活向上と家庭・学校・職場・社会等の連携協力をかかげて発足した。

当時 19 の事業所が会費を納入し、協力されたが、全市を網羅した強力なものとはいえなかった。

### ● 第 1 次改革

昭和 25 年、各地のボランティア子ども会や児童愛護班を補導連盟の組織の中に入れて、すっきりした機構にし、名称を川崎市青少年補導連盟とした。機構として本部－7 支部（支所別）－16 部会（中学校別）－55 班（小学校別）、班の下に各子ども会を置いた。

事務局の機構は局長に教育部長、次長に指導課長・厚生課長、県立川崎児童相談所長をあて、補導という面から教育と福祉という面が強くてできた。

### ● 第二次改革

昭和 26 年になると規約を改正し、支部の機構を明文化した。指導員を新しく置き、当地区内の子ども会その他の指導育成に当て、地域における青少年団体の活動の活発化に対処していた。

### ● 青少年補導連盟の確立

昭和 27 年には市内青少年団体が連盟の主体となり、「本連盟は川崎市校外生活指導会・川崎市子ども会連盟・川崎市青少年団連盟及び日本ボーイスカウト・ガールスカウト・川崎地区委員会を以って組織する」と改められた。その目的を「本市内青少年を指導育成し、その福祉増進を図る」と定め目的達成のための事業として、

- (1) 青少年の社会生活指導に関する事項
- (2) 学校・家庭・職場及び地域社会との連絡協調に関する事項
- (3) 青少年団体相互の連絡協調に関する事項
- (4) 青少年団体指導育成に関する公私の機関との連絡協力に関する事項
- (5) 指導者の研修に関する事項
- (6) 青少年指導に必要な調達
- (7) その他本連盟の目的達成上必要と認めた事項を実施することになった。

理事長・副理事長以下理事 15 名とし、評議員は校外生活指導会より 2 名、子ども会連盟より 5 名、ボーイスカウトより 4 名、ガールスカウトより 1 名、青年団連盟より 5 名が選出され、会計は理事である教委総務課長があたり、監事に市会計課長と団体代表の 1 名が就任した。同時に専任の指導員 2 名を採用、事業の遂行に一層の熱意がこめられた。

## ● 青少年育成連盟へ脱皮

昭和21年青少年補導連盟の名称のもとに活動が続けられてきたが、27年、青少年団体が連盟の中心となってからは補導よりも福祉育成の面が中心となり、補導連盟という名称は実体にそぐわないという意見が理事会・評議員会、青少年団体等でたびたびでていた。そこで昭和40年の理事会において名称変更の議案がだされ、青少年育成連盟の名称が選択され、名実とともに青少年の育成にあたっていくことになった。

## ● 青少年育成連盟の現状

昭和50年前半を境に、川崎市青年団連盟、川崎市青年団体連絡協議会の青年の組織が解散し、現在は、子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、海洋少年団の4つの少年団で構成している。少年少女の健全な育成という共通の目標をもちながら、設置目的・組織・構成など全く異なる団体が一体となって活動していることは、他都市に例のないことである。

現在では、川崎市を代表する青少年団体として位置づき、社会教育関係団体、文化、体育、スポーツ団体等の中でも先駆的な事業を進めている。

### 現在の主な事業の柱

- (1) 地域における青少年の健全育成
- (2) 国際交流の促進
- (3) 仲間づくり事業の推進

### 加盟団体の現況

- (1) 川崎市子ども会連盟（7区子連、単位子ども会389団体、会員約49000名）
- (2) ボーイスカウト川崎地区協議会（24ヶ団、76隊、隊員約1750名）
- (3) ガールスカウト川崎市連絡会（8ヶ団、隊員約500名）
- (4) 川崎海洋少年団（1団、隊員約100名）

## ● 中・高生部会について

青少年育成連盟加盟団体の中・高校生の交流及び研修を通して、団体相互、リーダー相互の協力、理解を深めることにより、青少年団体の発展、充実をめざすことを目的として、昭和61年2月に発会した。主な活動として、連絡会議や宿泊研修会を行ってきたが、現在では各所属団体の活発な活動と、中・高生部会としての活動の両立が難しく、その独自の活動は休止中である。

しかしながら、毎年行なわれている育成連盟主催の県外交流研修では、中・高生部会の会員が多数参加し、他都市の中・高生リーダーとの親睦を深める一方で、中・高生部会としての目的を達成している。

## ● 育連だよりの発行

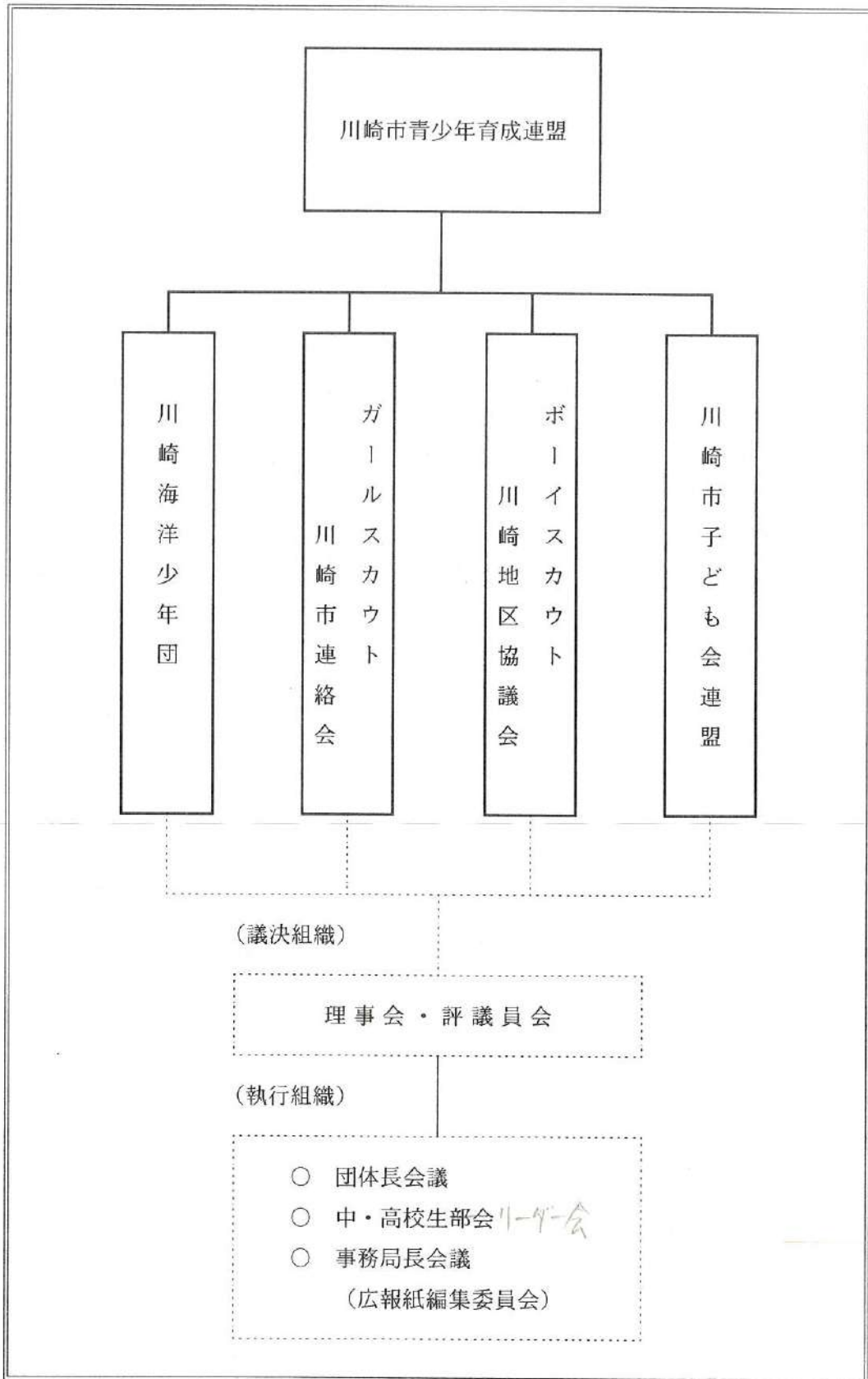
平成元年、当時、青少年教育課の金子副主幹（現社会教育部長）の発案で始まった。

広報紙づくりなど全然素人のボーイスカウトが担当することになり、不安と戸惑いのなか手さぐりで原稿用紙や割付用紙などを作った。

第1号は、増子理事長、4団体長に原稿をお願いし、残りは各団体の事務長をお願いし、平成2年3月31日ようやく発行することができた。

以後は、年2回定期的に発行するようになり、平成8年9月30日には14号まで続いている。内容は、各団体のニュースを中心に編集されている。これからも皆様により新鮮な情報を送りたいと思う。

● 組織表



## 2. 青少年育成連盟役員名簿

年度	21	22	23	24	25	26
理 事 長	金刺不二太郎	不 明	不 明	不 明	金刺不二太郎	金刺不二太郎
副 理 事 長	助 役 前川信太郎 荒井 勉 堤 盛一	"	"	"	原 保雄 堤 盛一 小清水黄二 小塚 信一	原 保雄 中川 三郎 小清水黄二
顧 問		"	"	"		
参 与		"	"	"		千葉 清治 松尾 与助 沢井 測 酒井 菊雄 村上 武道
常 任 理 事	原 義節 小塚 信一 山崎 博 佐谷 賢道 渡辺喜久司 福田 正造 千葉 清治 山下 富世	"	"	"		
理 事	木島栄次郎 川神 寛寿 佐藤 正 永塚 酉蔵 新川 正一 岡本 龍 小泉敷太郎 鯨井 寅松 吉水 智承 斉藤 男次 石井 太郎	"	"	"	緒方 鉄雄 唐戸 末蔵 風巻 義雄 野崎勇次郎 控井美津男 寺岡 一郎 佐谷 賢道 代田 勇 塩谷菊三郎 石川八代次 波多野広一 吉水 智承 中島 其二 山下清太郎 村越 源造 山本 正兄	

年度	27	28	29	30	31
理 事 長	風巻 義雄	風巻 義雄	風巻 義雄	風巻 義雄	風巻 義雄
副 理 事 長	中川 三郎	中川 三郎	中川 三郎	中川 三郎	吉水 智承
顧 問	金刺不二太郎 議 長	金刺不二太郎 高須 康治	金刺不二太郎 高須 康治	金刺不二太郎 高須 康治	金刺不二太郎 高須 康治
参 与	原 保雄 吉水 智承 川辺 定一 田中 浜男 文教常任委員長 文教常任副委員長	原 保雄 吉水 智承 川辺 定一 田中 浜男 金子 直蔵 奥村 栄	原 保雄 吉水 智承 川辺 定一 田中 浜男 吉浜 照治 鈴木総一郎	原 保雄 田辺 光治 吉水 智承 勝呂 淵妙 田中 浜男 山崎 博 久保木 章	原 保雄 田辺 光治 中川 三郎 勝呂 淵妙 田中 浜男 山崎 博 久保木 章
常 任 理 事	千葉 清治 川神 寛寿 根岸 定良 池上 保元 小清水黄二 樋山 智也	根岸 定良 岡本 重辰 小清水黄二 小島 一也			
理 事	学校教育課長 社会教育課長 厚生課長 防犯少年課長 川崎児童相談所長 河本 肇 塩原 三男 高 昇三 川辺 菊雄	千葉 清治 川神 寛寿 沢井 測 松尾 与助 東野 二一 太田 一 田浦 秀昭 河本 肇 杉山 武 鈴木 一夫 樋山 智也	井上 洋治 小島 一也 千葉 清治 川神 寛寿 岸 米作 松尾 与助 東野 二一 田浦 秀昭 大和田栄助 杉山 武 塩原 三男 小清水黄二 柏倉 秀和 井上 昭一	千葉 清治 川神 寛寿 岸 米作 松尾 与助 東野 二一 田浦 秀昭 大和田栄助 杉山 武 塩原 三男 小清水黄二 柏倉 秀和 井上 昭一 井上 洋治 小林 晃夫	千葉 清治 三科 寵 岸 米作 山口 三蔵 矢野 武男 田浦 秀昭 杉山 武 塩原 三男 小清水黄二 鈴木 一夫 鹿島 庄平 山田 勝之 関 昇一郎

年度	32	33	34	35	36
理事長	風卷 義雄	風卷 義雄	風卷 義雄	風卷 義雄	風卷 義雄
副理事長	吉水 智承	吉水 智承	吉水 智承	吉水 智承	吉水 智承
顧問	金刺不二太郎 麻生 理純	金刺不二太郎 麻生 理純	金刺不二太郎 青木 喜市	金刺不二太郎 青木 喜市	金刺不二太郎 青木 喜市
参与	原 保雄 田辺 光治 中川 三郎 田中 浜男 高 昇三 小川 玉子	原 保雄 田辺 光治 田中 浜男	原 保雄 田辺 光治 田中 浜男	原 保雄 田辺 光治 田中 浜男 島田 きみ	原 保雄 田辺 光治 田中 浜男 島田 きみ
常任理事					
理事	千葉 清治 三科 龍 岸 米作 矢野 武男 田浦 秀昭 小林 正男 山口 三蔵 杉山 武 塩原 三男 小清水黄二 鈴木 一夫 山田 勝之 鹿島 庄平 関 昇一郎	千葉 清治 三科 龍 岸 米作 矢野 武男 浦城満之助 小林 正男 山口 三蔵 杉山 武 塩原 三男 小清水黄二 鈴木 一夫 鹿島 庄平 内藤 教雄 吉浜 勉	千葉 清治 三科 龍 岸 米作 矢野 武男 浦城満之助 金子 善行 山口 三蔵 杉山 武 塩原 三男 小清水黄二 鈴木 一夫 内藤 教雄 小林 正一 吉浜 勉	千葉 清治 勝田 繁夫 米山 豊 矢野 武男 上野 栄治 金子 善行 山口 三蔵 杉山 武 塩原 三男 小清水黄二 鈴木 一夫 田辺 良隆 小林 正一 吉浜 勉	千葉 清治 勝田 繁夫 米山 豊 矢野 武男 上野 栄治 原田 三郎 山口 三蔵 杉山 武 塩原 三男 小清水黄二 鈴木 一夫 広山 宗一 田辺 良隆 吉浜 勉

年度	37	38	39	40	41
理事	吉田千勝	承男治夫	承道治藏	承道治藏	承道治藏
副理事	水田千	水田葉口	水田葉口	水田葉口	水田葉口
評議員	智浜清繁	智清清三	智清清三	智清清三	智清清三
評議員	六武栄一	六栄一	六憲一	六憲一	六憲一
評議員	憲太	憲太	憲太	憲太	憲太
評議員	義	義	義	義	義
評議員	經寛雄	寛忠	寛忠	寛忠	寛忠
評議員	秀実	喜種	喜種	喜種	喜種
評議員	伸長	昌黄秀	昌黄秀	昌黄秀	昌黄秀
評議員	正養喜	常幸	常幸	常幸	常幸
評議員	三黄秀宗	正正	正正	正正	正正
評議員	常昌	正英一	正英一	正英一	正英一
評議員	栄遠	徳英一	徳英一	徳英一	徳英一
理事	武男二和一	武義二和	武義二和	武義二和	武義二和
理事	進吉	進勤吉	進勤吉	進勤吉	進勤吉
理事	義夫	義夫	義夫	義夫	義夫
理事	男勤治子	男勤治子	男勤治子	男勤治子	男勤治子
理事	比奈	比奈	比奈	比奈	比奈
理事	柴石	柴石	柴石	柴石	柴石
理事	田井	田井	田井	田井	田井
理事	誠四郎	誠四郎	誠四郎	誠四郎	誠四郎
理事	英夫	英夫	英夫	英夫	英夫







年度	52	53	54	55	56
理事長	立花勝夫	立花勝夫	立花勝夫	中野貴司	菅野芳彦
副理事長	金子正夫	金子正夫	古尾谷盛太郎	古尾谷盛太郎	古尾谷盛太郎
理事	金子正夫	金子正夫	古尾谷盛太郎	古尾谷盛太郎	古尾谷盛太郎
"	中島忠三	中島忠三	佐川直道	佐川直道	佐川直道
"	古尾谷盛太郎	古尾谷盛太郎	中島忠三	中島忠三	中島忠三
"	永見次男	永見次男	杉山武代	杉山武代	杉山武代
"	芦垣秀代	芦垣秀代	芦垣秀武	芦垣秀武	芦垣秀武
"	太田馨	福田武雄	福田武正	福田武正	福田武正
"	中山多喜夫	横山信行	佐藤泉忠	佐藤泉忠	佐藤泉忠
"	青木孝行	西村俊行	和泉忠俊	和泉忠俊	和泉忠俊
"	西村俊行	和泉忠正			
"	和泉忠俊	秋山正一			
評議員	杉山武藏	杉山武藏	河田四郎蔵	河田四郎蔵	河田四郎蔵
"	河田四郎蔵	河田四郎蔵	井口芳三郎	井口芳三郎	井口芳三郎
"	秋山六郎	秋山六郎	秋山六郎	西田保夫	西田保夫
"	馬場義三郎	馬場義三郎	馬場義三郎	金子正夫	金子正夫
"	岡崎まさ子	東生すみ江	東生すみ江	中臣喜彦	中臣喜彦
"	福田武雄	国生雲孝	国生雲孝	中山雅六郎	小清水六郎
"	福田中良人	田中良人	宇田川雄三	秋山利茂	秋山利茂
"	志村一僖	中村一僖		堀本広三	堀本広三
"				東生すみ江	東生すみ江
"				田子ふみよ	田子ふみよ
"				国雲孝真	国雲孝真
"				中園美三	中園美三
會計	古尾谷盛太郎	古尾谷盛太郎	芦垣秀代	芦垣秀代	芦垣秀代
監事	太田馨優	太田馨優	西郷	西郷	西郷
"	西郷	西郷			



昭和62年				昭和63年			
理事長	教育委員長	増子正宏		理事長	教育委員長	増子正宏	
副理事長	子ども会連盟	中島忠三		副理事長	子ども会連盟	中島忠三	
理事	"	中島忠三		理事	"	中島忠三	
"	"	井口芳三		"	"	井口芳三	
"	B.S 地区協議会	児玉一男		"	B.S 地区協議会	児玉一男	
"	"	近江広之		"	"	河合武夫	
"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代		"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	
"	川崎海洋少年団	福田武雄		"	川崎海洋少年団	福田武雄	
"	社会教育部長	難波一尚		"	社会教育部長	難波一尚	
"	青少年部長	高塚伸一		"	青少年部長	高塚伸一	
評議員	子ども会連盟	三宅丈夫		評議員	子ども会連盟	三宅丈夫	
"	"	松沢誠治		"	"	松沢誠治	
"	"	井上和征		"	"	井上和征	
"	"	和田義雄		"	"	和田義雄	
"	"	大木作吉		"	"	大木作吉	
"	"	飯塚夏造		"	"	飯塚夏造	
"	B.S 地区協議会	山田利雄		"	B.S 地区協議会	山田利雄	
"	"	伊奈忍		"	"	伊奈忍	
"	"	伊屋明貞		"	"	伊屋明貞	
"	G.S 川崎市連絡会	東生すみ江		"	G.S 川崎市連絡会	東生すみ江	
"	"	小林美年子		"	"	小林美年子	
"	川崎海洋少年団	菊地陽子		"	川崎海洋少年団	菊地陽子	
"	"	大島敦子		"	"	大島敦子	
"	青少年課長	星野修美		"	青少年課長	星野修美	
"	青少年の家所長	乙黒典彦		"	青少年の家所長	乙黒典彦	
会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代		会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	
監事	子ども会連盟	西田保英		監事	子ども会連盟	西田保英	
"	庶務課長	長野隆		"	庶務課長	長野隆	
事務局長	青少年教育課長	稲垣善朗		事務局長	青少年教育課長	稲垣善朗	
事務局次長	" 副主幹	芳賀郁夫		事務局次長	" 副主幹	金子徹也	
"	G.S 川崎市連絡会	西葉法子		"	G.S 川崎市連絡会	西葉法子	
事務局員	川崎海洋少年団	井本勝己		事務局員	川崎海洋少年団	井本勝己	
"	子ども会連盟	辻正人		"	子ども会連盟	辻正人	
"	"	高橋清勝		"	"	高橋清勝	
"	B.S 地区協議会	花形勝雄		"	B.S 地区協議会	花形勝雄	
"	青少年教育課	五十嵐豊和		"	青少年教育課	道坂秀雄	
"	社会教育中高生担当	市川浩二		"	"	市川浩二	
"	"			"	"	高畠正晶	

平成元年				平成2年			
理事長	教育委員長	増子正宏		理事長	教育委員長	増子正宏	
副理事長	子ども会連盟	中島忠三		副理事長	子ども会連盟	中島忠三	
理事	"	中島忠三		理事	"	中島忠三	
"	"	井口芳三		"	"	井口芳三	
"	B.S 地区協議会	児玉一男		"	B.S 地区協議会	堀田利則	
"	"	河合武夫		"	"	河合武夫	
"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代		"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	
"	川崎海洋少年団	福田武雄		"	川崎海洋少年団	福田武雄	
"	社会教育部長	難波一尚		"	社会教育部長	市村精助	
"	青少年部長	富田三郎		"	青少年部長	小野喜一郎	
評議員	子ども会連盟	三宅丈夫		評議員	子ども会連盟	三宅丈夫	
"	"	井田肇		"	"	井田肇	
"	"	井上和征		"	"	井上和征	
"	"	石野実吉		"	"	石野実吉	
"	"	大木作吉		"	"	大木作吉	
"	"	飯塚夏造		"	"	飯塚夏造	
"	B.S 地区協議会	坂谷昭一		"	B.S 地区協議会	坂谷昭一	
"	"	伊奈忍		"	"	伊奈忍	
"	"	屋明貞		"	"	渡部公子	
"	G.S 川崎市連絡会	落合園子		"	G.S 川崎市連絡会	落合園子	
"	"	小林美年子		"	"	小林美年子	
"	川崎海洋少年団	菊地美智子		"	川崎海洋少年団	菊地陽子	
"	"	大島敦子		"	"	大島敦子	
"	青少年課長	星野修美		"	青少年課長	星野修美	
"	青少年の家所長	伊藤光治		"	青少年の家所長	伊藤光治	
会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代		会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	
監事	子ども会連盟	西田保司		監事	子ども会連盟	西田保司	
"	庶務課長	服部英司		"	庶務課長	服部英司	
事務局長	青少年教育課長	佐伯法康		事務局長	青少年教育課長	佐伯法康	
事務局次長	" 副主幹	金子徹也		事務局次長	" 主査	藤井賢実	
事務局員	G.S 川崎市連絡会	西葉子己		事務局員	G.S 川崎市連絡会	西葉子己	
"	川崎海洋少年団	井本勝正		"	川崎海洋少年団	井本勝正	
"	子ども会連盟	辻正人		"	子ども会連盟	辻正人	
"	"	高橋清勝		"	"	高橋清勝	
"	B.S 地区協議会	花形勝		"	B.S 地区協議会	花形勝	

平成3年				平成4年			
理事長	教育委員長	佐近賢一		理事長	教育委員長	佐近賢一	
副理事長	子ども会連盟	中島忠三		副理事長	子ども会連盟	中島忠三	
理事	"	中島忠三		理事	"	中島忠三	
"	"	大木作吉		"	"	大木作吉	
"	B.S 地区協議会	堀田利則		"	B.S 地区協議会	堀田利則	
"	"	坂谷昭一		"	"	坂谷昭一	
"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代		"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	
"	川崎海洋少年団	福田武雄		"	川崎海洋少年団	福田武雄	
"	社会教育部長	市村精助		"	社会教育部長	小机實	
"	青少年部長	小野喜一郎		"	青少年部長	小野喜一郎	
評議員	子ども会連盟	三宅丈夫		評議員	子ども会連盟	三宅丈夫	
"	"	井田肇		"	"	井田肇	
"	"	井上和征		"	"	井上和征	
"	"	小保方健次		"	"	小保方健次	
"	B.S 地区協議会	河合武夫		"	B.S 地区協議会	河合武夫	
"	"	屋明貞		"	"	屋明貞	
"	"	渡部公子		"	"	渡部公子	
"	G.S 川崎市連絡会	西葉子		"	G.S 川崎市連絡会	西葉子	
"	"	小林美年子		"	"	小林美年子	
"	川崎海洋少年団	菊地陽子		"	川崎海洋少年団	菊地陽子	
"	"	大島敦子		"	"	大島敦子	
"	青少年課長	星野修美		"	青少年課長	清田智照	
"	青少年の家所長	佐伯法康		"	青少年の家所長	佐伯法康	
会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代		会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	
監事	子ども会連盟	西田保夫		監事	子ども会連盟	西田保夫	
"	経理課長	石井英夫		"	経理課長	吉沢肇	
事務局長	青少年教育課長	荻沼典之		事務局長	青少年教育課長	金子徹也	
事務局次長	" 主査	藤井賢実		事務局次長	" 主査	市川浩二	
事務局員	子ども会連盟	辻正人		事務局員	子ども会連盟	辻正人	
"	"	高橋清勝		"	"	高橋清勝	
"	B.S 地区協議会	花形紀子		"	B.S 地区協議会	花形紀子	
"	G.S 川崎市連絡会	清水紀子		"	G.S 川崎市連絡会	清水紀子	
"	川崎海洋少年団	大島武巳		"	川崎海洋少年団	大島武巳	
"	"			"	青少年教育課	小田桐恵	
"	"			"	育成連盟事務局	坂谷透	



平成5年				平成6年			
理事長	教育委員長	佐藤博	鷹三	理事長	教育委員長	佐藤博	鷹三
副理事長	子ども会連盟	中島忠	三	副理事長	子ども会連盟	中島忠	三
理事	"	中島忠	三	理事	"	中島忠	三
"	"	大木作	吉	"	"	中辻	正
"	B.S 地区協議会	堀田利	則	"	B.S 地区協議会	堀田利	則
"	"	坂谷昭	一	"	"	坂谷昭	一
"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀	代	"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀	代
"	川崎海洋少年団	福田武	雄	"	川崎海洋少年団	福田武	雄
"	社会教育部長	小机	實	"	社会教育部長	小机	實
"	青少年部長	柿島住	男	"	青少年部長	小広瀬	一
評議員	子ども会連盟	三宅丈	夫	評議員	子ども会連盟	三宅丈	夫
"	"	井田	肇	"	"	米山	敏
"	"	山崎	優	"	"	山崎	優
"	"	小保方	健	"	"	小保方	健
"	B.S 地区協議会	河合武	夫	"	B.S 地区協議会	河合武	夫
"	"	屋明	貞	"	"	屋明	貞
"	"	小路忠	臣	"	"	小路忠	臣
"	G.S 川崎市連絡会	落合園	子	"	G.S 川崎市連絡会	落合園	子
"	"	佐々木	れい	"	"	佐々木	れい
"	川崎海洋少年団	菊地陽	子	"	川崎海洋少年団	菊地陽	子
"	"	大島敦	子	"	"	大島敦	子
"	青少年課長	西村政	雄	"	青少年課長	大畑敏	雄
"	青少年の家所長	佐伯法	康	"	青少年の家所長	佐伯法	康
会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀	代	会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀	代
監事	子ども会連盟	西田	保	監事	子ども会連盟	西田	保
"	経理課長	吉沢	肇	"	経理課長	大野	彰
事務局長	青少年教育課長	金子徹	也	事務局長	青少年教育課長	金子徹	也
事務局次長	" 主査	市川浩	二	事務局次長	" 主査	市川浩	二
事務局員	子ども会連盟	高橋	清	事務局員	子ども会連盟	高橋	清
"	B.S 地区協議会	町田	叡	"	B.S 地区協議会	町田	叡
"	G.S 川崎市連絡会	清水紀	子	"	"	尾形博	子
"	"	内藤隆	子	"	G.S 川崎市連絡会	清水紀	子
"	川崎海洋少年団	山岡	修	"	"	内藤隆	子
"	青少年教育課	関裕	史	"	川崎海洋少年団	山岡	修
"	育連事務局	坂谷	透	"	青少年教育課	関裕	史
				"	育連事務局	坂谷	透

平成7年				平成8年			
理事長	教育委員長	佐藤博鷹	伊藤忠男	理事長	教育委員長	伊藤忠男	伊藤忠男
副理事長	子ども会連盟	中島忠三	中島忠三	副理事長	子ども会連盟	中島忠三	中島忠三
理事	"	中島忠三	中島忠三	理事	"	中島忠三	中島忠三
"	B.S 地区協議会	堀田利則	堀田利則	"	B.S 地区協議会	堀田利則	堀田利則
"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	芦垣秀代	"	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	芦垣秀代
"	川崎海洋少年団	福田武雄	福田武雄	"	川崎海洋少年団	福田武雄	福田武雄
"	社会教育部長	館健三	館健三	"	社会教育部長	金子徹也	金子徹也
"	青少年部長	小澤章	小澤章	"	青少年部長	小澤章	小澤章
評議員	子ども会連盟	三宅丈夫	三宅丈夫	評議員	子ども会連盟	三宅丈夫	三宅丈夫
"	"	米山敏彦	米山敏彦	"	"	米山敏彦	米山敏彦
"	"	山崎優次	山崎優次	"	"	山崎優次	山崎優次
"	"	小保方健次	小保方健次	"	"	小保方健次	小保方健次
"	B.S 地区協議会	辻合武夫	辻合武夫	"	B.S 地区協議会	辻合武夫	辻合武夫
"	"	河合武明	河合武明	"	"	河合武明	河合武明
"	"	花形勝臣	花形勝臣	"	"	花形勝臣	花形勝臣
"	"	小川路忠	小川路忠	"	"	小川路忠	小川路忠
"	G.S 川崎市連絡会	川浦恭子	川浦恭子	"	G.S 川崎市連絡会	川浦恭子	川浦恭子
"	"	大屋ヒサ子	大屋ヒサ子	"	"	大屋ヒサ子	大屋ヒサ子
"	川崎海洋少年団	大菊地陽子	大菊地陽子	"	川崎海洋少年団	大菊地陽子	大菊地陽子
"	"	大島敦子	大島敦子	"	"	大島敦子	大島敦子
"	青少年課長	大屋俊文	大屋俊文	"	"	大屋俊文	大屋俊文
"	青少年の家所長	高松陽	高松陽	"	青少年課長	大屋俊文	大屋俊文
会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	芦垣秀代	会計	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	芦垣秀代
監事	子ども会連盟	西田保彰	西田保彰	監事	G.S 川崎市連絡会	芦垣秀代	芦垣秀代
"	経理課長	大野彰	大野彰	"	子ども会連盟	西田保彰	西田保彰
事務局長	青少年教育課長	金子徹也	金子徹也	"	経理課長	大野彰	大野彰
事務局次長	" 主査	市川浩二	市川浩二	事務局長	青少年教育課長	古橋富美雄	古橋富美雄
事務局員	子ども会連盟	木村英男	木村英男	事務局次長	" 副主幹	市川浩二	市川浩二
"	B.S 地区協議会	安藤徹子	安藤徹子	事務局員	子ども会連盟	本池虹児	本池虹児
"	G.S 川崎市連絡会	山本瑩子	山本瑩子	"	"	本池虹児	本池虹児
"	"	内藤隆子	内藤隆子	"	B.S 地区協議会	安藤徹子	安藤徹子
"	川崎海洋少年団	山岡修一	山岡修一	"	"	町田良治	町田良治
"	青少年教育課	野中伸一	野中伸一	"	G.S 川崎市連絡会	山本瑩子	山本瑩子
"	育成連盟事務局	佐々木れい子	佐々木れい子	"	"	内藤隆子	内藤隆子
				"	川崎海洋少年団	山岡修一	山岡修一
				"	青少年教育課	小森章一	小森章一
				"	育成連盟事務局	佐々木れい子	佐々木れい子

# 3. 規 約

## (1) 川崎市青少年育成連盟規約

(名 称)

第1条 本連盟は、川崎市青少年育成連盟と称する。

(事務所)

第2条 本連盟の事務所は、中原会館（エポックなかはら）に置く。

(組 織)

第3条 本連盟は、川崎市子ども会連盟、日本ボーイスカウト川崎地区協議会、ガールスカウト川崎市連絡会、川崎海洋少年団をもって組織する。

(目 的)

第4条 本連盟は、本市内青少年を指導育成しその福祉増進を図ることを目的とする。

(事 業)

第5条 本連盟は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 青少年の社会生活指導に関する事項
- (2) 学校、家庭、職場及び地域社会との連絡協調に関する事項
- (3) 青少年団体相互の連絡協調に関する事項
- (4) 青少年団体指導育成に関する公私の機関との連絡協力に関する事項
- (5) 指導者の研修に関する事項
- (6) 青少年指導に必要な調査研究に関する事項
- (7) その他本連盟の目的達成上必要と認めた事項

(役 員)

第6条 本連盟に次の役員を置く。

- |             |     |   |
|-------------|-----|---|
| (1) 理 事 長   | 1   | 名 |
| (2) 副 理 事 長 | 1   | 名 |
| (3) 理 事     | 若 干 | 名 |
| (4) 評 議 員   | 若 干 | 名 |
| (5) 会 計     | 1   | 名 |
| (6) 監 事     | 2   | 名 |

(役員の選出)

第7条 理事長は、川崎市教育委員長の職にあるもの、副理事長及び会計は、各組織団体長の中から互選するものとする。

2. 理事及び評議員は、各組織団体より選出されたるもの及び理事長が委嘱したものとする。

3. 監事は、各組織団体の中から1名を互選し、他の1名を教育委員会事務局経理課長職をもってあてる。

(役員職務)

第8条 理事長は、本連盟を代表しこれを統轄する。

2. 副理事長は、理事長を補佐し理事長事故あるときにはこれを代行する。
3. 理事は、理事会を構成し業務の運営にあたる。
4. 評議員は、予算その他重要事項を審議する。
5. 会計は、経理事務にあたる。
6. 監事は、会計を監査する。

(任 期)

第9条 役員の任期は1年とする。ただし中途就任したる者の任期は、前任者の残任期間とする。

(顧問及び参与)

第10条 本連盟に顧問及び参与を置くことができる。

2. 顧問及び参与は、評議委員会の承諾を経て理事長が委嘱する。
3. 顧問は理事長の諮問に応じ、参与は業務の運営に参加する。

(事務局)

第11条 本連盟に事務局を置く。

2. 事務局員は理事長が任命する。

(会 議)

第12条 理事会・評議会は、年3回以上開くものとする。

2. 役員総会は、必要あるときこれを開くことができる。
3. 会議は、理事会がこれを招集し出席者の過半数をもって決する。

(経 費)

第13条 本連盟の経費は、補助金その他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第14条 本連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(雑 則)

第15条 この規約の変更は、評議委員会の議決を経なければならない。

2. この規約施行に必要な細則は別にこれを定める。

附 則

この規約は昭和21年10月4日から施行する。

附 則

この改正規約は昭和44年4月1日から適用する。

附 則

この改正規約は昭和49年4月1日から適用する。

附 則

この改正規約は平成3年4月1日から適用する。

## (2) 川崎市青少年育成連盟細則

第1条 本細則は、青少年育成連盟規約第15条第2項の規程に基づく。

第2条 各団体の年会費は、1団体につき補助金年額の10%とし、川崎市青少年育成連盟へ納付する。

第3条 表彰規程及び慶弔内規は別に定める。

### 附 則

この細則は、昭和44年4月1日から施行する。

この細則は、昭和53年5月26日から適用する。

この細則は、平成8年4月1日から適用する。

## 4. 団体長さんこんにちわ —

いつも重い責任を背負って頑張って下さっている4人にうかがいました。

(インタビュー順)

ガールスカウト川崎市連絡会

芦垣秀代  
会長

この夏のガールスカウトの記念事業でヨーロッパを訪れたことに話をむけると、次々と止まらないほどの勢いになった。

正規の訪問コースが終わったあと、数年前に育成連盟の交流事業で育てられた友情のおかげで、ユーゴへ招待を受けリエカ市などを回ったという。なにしろ片道5時間もかけて迎えに来てくれたり、滞在中にいかに暖かいもてなしだったとか、随所に会長らしい感性が込められた話だ。そもそも、この団体とのなれ染めは、息子さんがボーイスカウトへ入り、時折り娘さんと活動に参加したところ、私も入りたいと云い出したことに始まり、次々と深入りした次第だ。まず、今迄に4個団の創設に関係したこと。そのうち、次々に要職をやらされ、たちまち団体長となって、それで何年?と聞くと、瞬時こたえがなく、25年位よーとのこと。4半世紀とは如何にもベテランだ。

その間で、やはり苦勞したことは「人間関係よ」と明快なご返事である。最初は一主婦と

して入ったが、次第に多くの人と知り合えて、勉強になりましたし、今では私の立場はリーダー達が働き易いように気を配る—いわば小間使いのようなものだ—と考えているという。

今回のヨーロッパで知ったけど、これからはますます国際化が進むし、あちらではスカウト組織だけではなく、青少年教育の連合体みたいなものが、協力し合って活動しており、それを考えると、日本ではまだまだ個々の団体のみにとらわれがちで、反省の要がある—とのこと。「ご家庭では」と聞くと、私は意地ッ張りだから何でも完璧よーとのこと。「意外でしょ」と云われて「いえ、そんなことアリマセン」とお答えする。

これからは、ますます、子どもたちが消極化するから、リーダーも自分から身をもって子どもたちのなかへ入って活動するのが大切で、ガールスカウトとしては、女性がその特性と能力を活かして子どもを育てることが、そして世の中を支える女性をつくるのが大事—と。「だって、女性がダラけていたらその国は亡びるでしょ!」—良いしめくくりだ。

川崎市子ども会連盟

中島忠三  
連盟長

連盟長、兼育成連盟の副理事長という立場から、挨拶することが多い。

この日のガールスカウトの“平和キャンペーン”の開会式でこう述べた。

この大勢のなかでも戦争に狩出された経験のあるのは私ひとりだろう—と前置きして、戦争





の悲惨さを語った。

そのあと、戦後の混乱のなかで子ども達が家も無くし、心も無くし、不良化してゆく状況を見て、青少年育成に携わる決心をしたのだという。おとなの責任として、心ある人々が集まって作ったのが、“補導連盟”といい、それが改組されて子ども会のもとである“教育連盟”となったという。

子どもたちと最初は野球大会から始まって、女の子はハネツキ大会となり、この伝統は今でも続いて45回を越しているという。

いつから連盟長にと問うても、永くてよくわからない一とのこと。それ程永いのだろう。あなたのモットーは一に対して、即座に、“不言実行”と明快である。そして、「私は無責任が最もキライだ。戦争中は毎日が死と向かい合う日々だったが、それが終ると、逆転して、全くダラシない世の中となった。加えて過保護や、過ぎた自由主義で、おとなが無責任すぎる」と手厳しい。

それではどうしたら？に答えて、おとな自体が考え直さねばダメだ。行き過ぎたものを直し、更に他人のことを思いやるおとなにならなければ、子どもも良くならない一との答え。ご自分について一「これは他人が云うんだが」一オレは口が乱暴なのでコワイといわれるが、お世辞もないし社交性も無いかも知れないが本音はやサシイと思っている。

不言実行だから、やらない人は大きらいだ。もともと、我々のやっていることは、ボランティアとは私は思っていない。子どものために自分がやりたいから、ただやるだけだ一と基本

姿勢を語る。

「いやならやめろ一」はいいすぎでしょうがこの道を好きになって各々が頑張りたいものだ。

「それにしても皆よくついて来てくれるよ！」一がしめくりであった。

## 川崎海洋少年団

### 福田 武雄 団長

高校一年生のとき、ひとに勧められて昭和40年に少年団員となって以来の付き合いだという。

まだ当時は、横浜海洋少年団のなかの川崎隊であったのが、今の川崎団として昭和41年に発団したという。

以降ずっと関係してきたが、昭和49年に第三代目の団長に就任して、今年で23年、団長が続いている。去年は30周年を祝った。

この団体は、他の3団体に比べて一個団のみという小世帯。それ故に良いところも、問題点もあるという。なににつけても家族的で、「私のことは事務局長の方が私自身より良く知っているはず」一というように、徹底的にファミリー的であるようだ。

モットーはと聞くと、“協調性”という。

なるほどこれも家族的なこの団体に絶対不可欠なことなのだろう。

しかも、ご自分を「プラス志向なので、大変だとか、辛いとかは考えないことにしているから無いと云い切るが、反面、楽しい思い出は沢山ある」そうだ。





なかでも、昭和50年の夏、念願であった全国大会への参加が広島まで出かけて初めて果たせたこと。また、昭和52年にはなんと音楽隊の編成が実現できたこと一等々。

しかし、今の子どもは — と問うと、団員たちの現状を見ても、パソコンゲームなどが遊びの中心なので、自然のなかで工夫して遊んだ昔の子どもに比較して、個性がとぼしいというお答えだ。しかも、偏差値教育の弊害もあって、没個性化が進み、その結果が、海洋少年団の活動のなかにも大きな影を落としていると感じている。

これからの方向づけは — に対して、あまり大きなことは云えないが、10年後も、基本的にはまず団が生き残っていて欲しいのが第一で、無論、もっと団員数の増強が希望の第一のことだと明確な発言である。

ご職業は、公務員である由だが、ご本人の信条としては、自分自身を失うことなく、常に温かい思いやりを持ち、何事にも感謝することも忘れるな — と大変模範的なご返事が返って来た。

団としては「国際交流もやりたいですネ」ともの静かに団長はニコリ笑った。

## ボーイスカウト川崎地区協議会

### 堀 田 利 則 会 長

お宅へお訪ねすると、まず目に入ったのが、文部大臣より社会教育に貢献したことによる表彰状。そもそも、お子さんが学校に入った時から始まったPTA役員の仕事がかこうした世界へのキッカケとなり、県PTA連絡協議会副会長も長くつとめたという。

ボーイスカウトでは川崎40団が発団した時から、古尾谷元会長と一緒にまもり続けて来ており、協議会長になってすでに8年になるという。自分で云うのもなんだが — と前置きして、「私の良いところは“人柄だ”といわれています。



そのために、団体として幅の広い活動を支えるために、今迄知り合った色々な方のご援助を受けながら問題も無く、役目を果たさせて戴いています。育成連盟に対する市からの助成のおかげで我々の活動が出来ていることについても、先ず感謝の心を持たねばならない。— そう、感謝の心が、私の人柄ですネ。」とニコヤカに語っている。

育ちが九州なので、「家ではいばっているだろ」といわれるが、そうでもない。家族に対しては厳しすぎることなく、程々だ」という。今の子どもたちのことに話が及ぶと、「甘やかされており、がまんが足りない。最近、今の子は弱いといわれるのはこの点だ」と明言する。ボーイスカウト関係者のなかでも、一番指摘したいのは、「時間が守れない。ルーズなのはダメ。遅れて来るのは、他の人への礼儀を失っているということで、時間が守れないようでは何も出来ない」と自身の信条を語っている。そんな、まじめ温和な会長にも思い出に残る大失敗がある。もう大分以前のはなしだが、夏キャンプで、道志の森へ行った折、スカウトやリーダー達の前で池へドボンと落ちてしまい笑われた — 一生の不覚で忘れられないという。これからの青少年教育に望むことは — と問うと、社会条件の変化から、人権とかいじめとか大変難しいであろうが、今日まで先人の苦勞して残して来た道を忘れることなく、志をもって、みんなで支え合っていて欲しい。それには、お互いの感謝の心を忘れないことだ — と再び初めのはなしにもどった。

## 5. 各青少年団体のあゆみ

### (1) 子ども会のあゆみ

#### ア. 子ども会連盟の発足

連盟発足の前身を述べてみると、戦後荒廃の昭和21年、女子大生等による市街地における児童、青少年を対象に街頭や盛り場に出て問題児を発見、善導することはもとより、母、姉となって良き相談相手となり子ども達を戦争の犠牲から救おうと児童愛護活動が行われたことから始められた。

昭和21年9月に文部省から児童愛護班活動が出され、昭和22年6月川崎にも9班の結成をみた。しかし本格的に活動をみたのは昭和24年(各校区ごと)になってからだった。

昭和25年には発展的解消して「校外指導」と「子ども会」へとかわっていった。

一方地域有志によって生れた「子ども会」は、子どもたちが“悪の道に走らないよう”にと活動していた。乏しい予算や物資の中で少しでも子どもたちに夢と希望を与え、文化的なものと指導者が苦勞し、子どもたちの喜ぶ姿に生きがいを感じて活動した時でした。



昭和25年10月川崎市連合子ども会が行政と合同組織で結成されたが、文部省の規制等があり改革を余儀なくされ、「より多くの子どもたちに幸せを」の理想に燃えていた人々により「連盟」発足の準備が進められた。

昭和27年7月6日川崎市子ども会連盟が発足。理事長小清水黄二氏、副理事長塩原三男氏、指導部主宰長谷川三郎氏と現顧問杉山武氏他の諸先輩による活動が「大師・田島・御幸・中原・高津・稲田」の各支部に組織され活動が始められた。

#### イ. 子ども会の経過

昭和27年7月発足、補導連盟より54万円の助成金を受けた。当時の金額としては莫大な金額であり、本部、支部の各事業に支出され子ども会の風土は高まっていった。

発足当時270といわれた単位子ども会は、団体登録の結果140団体であった。それは戦前の統制、指示を嫌う世情であり、連盟加入促進活動は困難をきわめたが、その反面支部活動が軌道に乗り活発化したため、単位の子ども会から見直され歓迎されたが、各支部とも努力の割合には加入数は伸びなかった。

昭和30年代は連盟事業の確立のため、児童生徒の校外生活指導を目的とした諸事業が行なわれ、各支部では地域の特色を生かした行事が展開された。

連盟もまた、5月5日「子どもの日大会」を始め移動子ども会、夏は小学生の野球大会等を行い子どもたちから喜ばれた。

野球大会が年々盛大になるにつれ、中学生大会の要望が強く、昭和35年防犯野球を含めて実

施された。

各支部、大会持回りも昭和44年第16回大会より子ども会野球の「メッカ」として、東京新聞、中日スポーツの後援をうけて年々盛会となり今日にいたった。

一方、女子の羽根つき大会は野球と同時期に始められ、小中の団体戦で実施された。特に30年代は田島支部が圧倒的に強く小学生が9連勝の記録をつくったが、昭和45年多摩支部が10連勝の記録を残した。

羽根つきも団体戦だけであったが個人戦と、お母さんの団体と個人戦が加わり、羽根つきの継続に少々問題はあったが、これを機会に盛会となり伝統の羽根つきは今日にいたった。

子ども会活動の文化的面を見ると、子どもたちの絵と書道、育成者を含めた写真の作品展が昭和42年に始められ、現在は絵と書道の作品展として年々応募数の増加をみているほか、Xマス子ども大会が少年少女の集いとなって各区子連で毎年実施されている。

組織的に見て行くと、昭和30年と35年に組織機構の改正が行なわれた。特に35年は多年懸案の加盟登録費を徴収する事となり、自主団体として基金を持つこととなった。組織的には連盟長制となり小清水黄二氏が初代連盟長となった。また運営委員制度を改め委員会制度として（体育、文化、広報、組織拡張、野外）5委員会が設けられ委員会の基礎となった。昭和47年指定都市として区制が引かれ、御幸支部は幸支部、稲田支部は多摩支部となったが川崎区だけは川崎、田島、大師の3支部が残り色々な問題が生じた。

昭和58年規約の改正を行い、区1つに統一することとなり各区とも区の名称を呼ぶこととなった。組織は連盟—区子ども会連合会（区子連）—支部又は地区に組織が統一され、区子連は川崎、幸、中原、高津、宮前、多摩、麻生の7区子連となった。

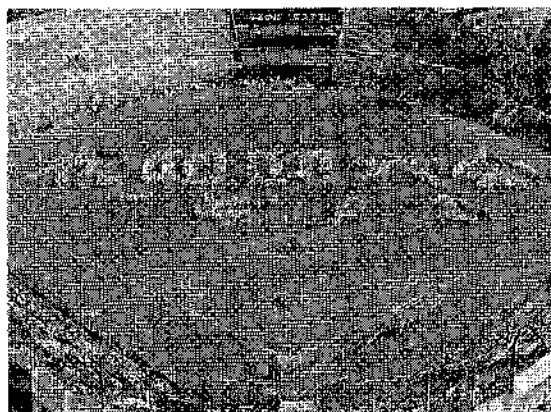
連盟は県子連のみ加盟であったが、指定都市子連より加盟要請や督促が毎年あり、昭和54年より加盟した。

昭和55年安全会を県子連より分離独立し川子連安全会を設立、子ども会活動の災害事故時の見舞制度を確立して、今に至っている。

連盟も県子連と協力して、地域の特色を生かした諸々の行事を県子連の中核子ども会として全子連中央会議を始め、ジュニアリーダー研修会には積極的に参加した。

「子どもの手による、子ども会」には指導者の役割が大切であり、そのためには指導者の養成が重要である。特にジュニア・リーダーの養成が多く叫ばれ、その養成についてはこども文化センターの協力を得て、会長班長研修会を中心に育成者の研修を含めて回を重ねてきた。特に夏季のハヶ岳少年自然の家での2泊3日の合宿研修は各区の会班研の成果を上げた。しかし単位の子ども会では、活動の場が少なく、せっかくの研修成果が活用出来ず、やむなくJLのサークルとして控目な活動となっていた。

全子連（53年）指定子連（54年）JL研修会に数名ずつ毎年参加するようになり、また、ア



ラスカ・トレーニングキャンプにも毎年参加者が出た。

これらに参加したJLが中心となって自主的な集まりが輪となって区子連の中に芽生え活動となって始められた。

61年3月札幌市子連JLが来川し交流会が行われ、川子連JLとして友好と友情の花が咲き成功裡に終了した。これを機会に仲間がまとまりJLサークル、「ギブアンドテイク」が川子連組織の中に誕生しその後、平成6年より各区JLクラブが発会し、連盟にJL連絡会が発足した。

平成6年11月中原市民館に於いて指定都市子ども会育成者研究協議会が開催され、連盟主催行事として全区子連が一致団結してこれに当たり大いなる成果を挙げることが出来た。

平成8年8月指定都市子ども会ジュニア・リーダー大会が川崎市で開催された。JL達はSLと協力し無我夢中で計画、設営、実施し会場の移動困難な中を指定都市子連JLの仲間と友好と友情を深め、再会を約束、涙の別れとなるほどの盛会裡に解散した。

川崎市子ども会連盟も46年を迎え、昭和62年の高度成長期をピークとし、昭和天皇が、昭和64年1月7日崩御、元号が平成と改号される。バブルが崩壊し、高齢化社会と逆に小子化時代に突入し、子ども会もその影響で平成7年度は400単会6JL子ども40,822人、指導者9,873名に減少している。

#### 安全会入会者の推移

	S 62	63	H 元	2	3	4	5	6	7
単 会	425	424	413	410	414	405	404	400	400
子ども	60,817	57,652	53,901	52,316	49,918	48,028	45,723	43,299	40,822
成 人	10,424	10,364	10,455	10,741	10,564	10,455	10,099	10,065	9,873
計	71,241	68,016	64,356	63,057	60,482	58,455	55,822	53,910	50,659

この小子化時代に対応するために諸行事の参加規定について見直しも検討中である。

いじめのない心豊かな、たくましい青少年の健全育成を私たち子ども会の使命と考え、また「子どもの手による、子どものための子ども会」を目指して、私たち指導者の役割、育成者の在り方を全国の子どもの会仲間と学びながら21世紀を担う子どもたちの幸せと平和を願って連盟の指導体制を確立し、ジュニアリーダーの育成と彼等の活躍とともに明日への子ども会のために今一層の努力が期待されている。

ウ. 年 表

年度	月 日	行 事 等	場 所
昭和27	7. 9	川崎市子ども会連盟結成総会	川崎公民館
	8～翌年	指導者技術研修会	旭町児童館
	2月	親子の集い 補導連盟主催	
		羽根つき大会 以後毎年実施	
		第2回グリーンハウス 昭和40年迄	金沢文庫
		野球大会 小学生 以後毎年実施	
		移動子ども会 未組織地域啓発のため	
28	5. 5	こども童謡コンクール大会	川崎公民館
	7. 29～31	子ども会指導者講習会	
	10.	秋季運動会 連盟行事として各支部で実施	
	11. 29	第2回児童文化会議	労働会館
29	10. 24	秋季子どもハイキング	
	3. 13	役員研修会	湯河原
	3. 27	春季子ども大会	向ヶ丘遊園地
		川崎市・小田原市児童文化交流会	小田原市 中央公民館
30	6. 10	野球ボールの指定 クレハボールC球 指導者研修会 市内7ヶ所	
	10. 8	川崎・東京子ども会指導者合同研修会	労働会館
31	6. 26	川崎市指導者研修大会	中央公民館
	2. 9～10	指導者懇親会	箱根 後楽荘
32	5. 5	こどもの日 祝賀行事	中央公民館
	11. 27	川崎・東京子ども研修会	渋谷公会堂
	3. 20～27	スケッチ大会作品展	こみや
33	8. 7	ラジオ体操全国中継	大師小学校
	10. ～11.	各支部体育大会	
34	5. 24	良い子の交歓会	金谷鋸山子ども会
	10. 21	大宮・川崎指導者交歓会	川崎図書館
	12. 13	クリスマス子ども大会	川崎公民館

年度	月 日	行 事 等	場 所
昭和35	7. 9～10 8. 21～22	川子連指導者研修大会 浜金谷子ども会交歓会  バドミントン大会 中学生女子 千葉市子ども会交歓会 人形劇を鑑賞する会 中学生野球大会始まる	金沢文庫 大師支部子ども会員の 家に宿泊 稲田中学校 市民館 川崎公民館
36		交歓会 浜金谷 以後10年間実施 5委員会制となる（文化委員会、広報委員会、野外活動 委員会、組織拡張委員会、体育委員会）	大師支部
37	7. 8. 20～21	国際青少年の集い タイ国の青年と交歓 会津若松市との交歓会 小学生・中学生 野球チーム 事務局を青少年センターに移設	
39			
40	5. 5    5. 5	交歓会 座間子ども会 二宮伊勢原子ども会 " 座間子ども会 来川 " 二宮・伊勢原 来川 県主催 少年少女のつどい参加 育連 県外研修 指導者研修 会長クラス 子ども遊園会参加 野球大会 東京新聞・中日スポーツ後援  3委員会（文化広報委員会、体育委員会、企画養成委員会）	姫路、大阪    川崎球場、富士見球場 ホームグラウンド
41	7.26～8. 6    11. 2	第16回グリーンハウス 機関誌発行 第1回 写真展開催 巡回映画 各支部 交歓会 兵庫県子ども会来川	横浜ドリームランド
42		役員民宿地見学 交歓会 長野市子連、館林市子連来川 野球大会パレード開始	

年度	月 日	行 事 等	場 所
昭和42		第1回作品展(絵画、書道) 交歓会 津久井子ども会	
43	10. 5 ~ 6	ジュニアリーダー研修会 羽根つき大会 東京新聞後援となる	
44		ジュニアリーダー研修会 県子連共催 秋の子ども大会 審判研修会	横浜ドリームランド 大師球場
45	6. 5	県子連子ども大会 指導者交歓会 柏市子ども会 ジュニアリーダー研修会 青少年センターと共催	
	8. 11~12	リーダー交歓会 会津若松市子連来川 20周年子ども大会	向ヶ丘遊園地
	12.	少年少女のつどい 羽根つき大会 個人戦及びお母さんの部 第1回優良子ども会 県知事表彰	産業文化会館 中原会館
46	11.	青少年育成連盟25周年記念式典 ジュニアリーダー研修会 連盟20周年記念大会 作品展展示会場	高津公民館 多摩テックキャンプ場 産業文化会館 さいか屋、溝の口サン コー 向ヶ丘サンコー
47		区制がひかれ、御幸支部が幸支部、稲田支部が多摩支部となる	
48	5. 7. 3.	子ども交歓会 指導者研修会 指導者研修会 少年少女のつどい 5地区で開催	県立青少年センター 平塚宗善公民館 西山教職員保養所
49		子ども会育成会々員研修会 県市連共催 市制50周年記念 野球、羽根つき大会 集団指導者研修会	湯河原 万葉荘

年度	月 日	行 事 等	場 所
昭和49		子ども会安全会制度（県子連）	
50	11.	少年団体講習会 初級 子ども会創作活動 県子連 中央育成者会議 全子連 中央会議	川崎市役所前 熱海 後楽園 箱根 小涌園
51	8. 9.	関プロ子連JL大会 野球教室 川上哲治 関子連研修 青少年育成連盟30周年記念式典 川崎市教育研究所調査協力 「子どもの校外生活に関する研究」 県子連JL研修会	秩父 大師球場 大洗 産業文化会館
52	10.	少年団体講習会（初級、中級） 県少年野球大会 子どもフェスティバル 稲田支部誕生	等々力公園
53	7. 8.	会長、班長研修会 全子連子ども会リーダー研修会 夏の子ども大会	国立那須甲子少年自然の家
54	11.	交歓会 荒川区 美化活動 青少年国際交流使節団派遣参加	リエカ市
55	10. 11.	全子連活動振興研修会 県子連20周年記念大会	国立婦人教育会館 厚木文化センター
56	11. 8 11.	川子連30周年行事 川子連30周年記念大会 ドッチボール大会 女子 61年度迄 バレーボール大会 女子 “ 全日本学童野球大会	甲子園 中原市民会館他 体育館 大師少年球場



年度	月 日	行 事 等	場 所
昭和56		安全会 県子連より独立	
57	7. 1	市制記念子ども大会	日本ランド
	10.	ドッチボール大会 男子 61年度迄	
	11.	指定都市研究会	京都
58	1. ~ 3.	親子で楽しむ会  全子連ジュニアリーダートレーニングキャンプ 安全教育委員会設置 宮前区子連 高津区子連より分割 麻生区子連 多摩区子連より分割 大師支部、田島支部、川崎支部が一区子連に、多摩区子連に 稲田支部が加入。区連合会となる	日本ランド、ディズニ ーランド アラスカ
59	8. 10. 21~22 11.	指定都市ジュニアリーダー研修会 指定都市子ども会育成研究協議会 第1回川崎市秋季学童野球大会 安全会モデル地区 一 高津区子連	京都 川崎市 大師少年球場
60		国際青年の年 各行事に参加 安全会モデル地区 一 川崎区子連 全子連ジュニアリーダートレーニングキャンプ	アラスカ
61		国際交流委員会発足 創作活動 多摩区子連・麻生区 安全会モデル地区 一 多摩区子連	
	7. 20~8. 4	姉妹都市少年野球交流試合派遣	ボルチモア市
62	5. 31 " 7. 27~31 7. 29~8. 3 8. 8~11 8. 15~18 10. 25~26	川崎市子ども会連盟総会 美化活動 全子連子ども会リーダー研究集会 アメリカボルチモア少年野球チーム来川 指定都市ジュニアリーダー大会 川崎市子ども会野球大会 関東甲越静育成協議会	互助会館とどろき 多摩川河川敷 岡山県 とどろき外 札幌市 川崎球場 箱根小涌園

年度	月 日	行 事 等	場 所
昭和62 63	11. 14~15	指定都市子ども会育成研究協議会	名古屋市
	2. 6	県子連中央指導者研修会	横浜市スカウト会館
	2. 13~15	全子連育成者中央会議	長崎市
	27~28	羽根つき大会	市立体育館
	5. 15	美化活動	多摩川河川敷
	5. 29	川崎市子ども会連盟総会	会館とどろき
	7. 8	川崎市立青少年の家改築オープン	青少年の家
	7. 27~31	全子連子ども会リーダー研究集会	岡山県
	8. 5~ 8	指定都市ジュニアリーダー大会	北九州市
	8. 6~ 7	川崎市子ども会野球大会	川崎球場
	9. 15~24	中国瀋陽市親善訪問	瀋陽~北京
	10. 29	川崎市子ども会議	青年会議所産業振興会館
	11. 12~13	指定都市子ども会育成研究協議会	神戸市
	11. 27~28	県子連中央指導者研修会	湯河原
平成 元年 2	2. 6~ 7	全子連育成者中央会議	水上市
	2. 19	羽根つき大会	市立体育館
	4. 2	明治製菓写生大会	明治製菓
	5. 28	川崎市子ども会連盟総会	市立産業文化会館
	6. 4	美化活動	多摩川河川敷
	7. 13~22	国際交流使節団招聘	川崎市
	7. 22~23	指定都市子ども会育成研究協議会	福岡市
	7. 27~31	全子連子ども会リーダー研究集会	御殿場 国立中央青年の家
	8. 3~ 6	指定都市ジュニアリーダー大会	伊賀少年センター
	12~14	川崎市子ども会野球大会	川崎球場
	2. 18	羽根つき大会	市立体育館
	2. 9~11	全子連育成者中央会議	奈良市
	5. 20	川崎市子ども会連盟総会	会館とどろき
	6. 3	美化活動	多摩川河川敷
	7. 27~31	全子連子ども会リーダー研究集会	御殿場 国立中央青年の家
	7. 25~28	指定都市ジュニアリーダー大会	名古屋市中津川キャンプ場
	8. 11~12	川崎市子ども会野球大会	川崎球場
	8. 10~23	全子連JLトレーニングキャンプ	兵庫県子どもの村
	11. 10~11	指定都市子ども会育成研究協議会	大阪市
11. 16~29	姉妹都市リエカ市訪問	子ども会7名参加	

年度	月 日	行 事 等	場 所
平成 2	2. 3～ 4	金子連育成者中央会議	沖繩市
3	2. 17	羽根つき大会	市立体育館
	2.	ロシア災害見舞金 250万円市役所に寄付	
	5. 3	川子連40周年記念野球大会開会式	川崎球場
	6. 2	川崎市子ども会連盟総会	会館とどろき
	〃	美化活動	多摩川河川敷
	7. 25～28	指定都市ジュニアリーダー大会	神戸市
	7. 27～31	金子連子ども会リーダー研究集会	御殿場 国立中央青年の家
	8. 17～18	40周年記念川崎市子ども会野球大会	川崎球場
	10. 27～28	県子連中央指導者研修会	藤沢ニュー向洋
	11. 24	連盟40周年記念式典	エポックなかほら
	〃	指定都市子ども会育成研究協議会	横浜市
4	2. 2	40周年記念羽根つき大会	市立体育館
	2. 9～11	金子連育成者中央会議にて川子連40年表彰	三重県賢島
	2.	安全旗作成各区に贈る	
	5. 31	川崎市子ども会連盟総会	会館とどろき
	〃	美化活動	多摩川河川敷
	7. 27～31	金子連子ども会リーダー研究集会	御殿場 国立中央青年の家
	7. 30～8/ 2	指定都市ジュニアリーダー大会	福岡県立海の中道青少年の家
	8. 15～16	川崎市子ども会野球大会	川崎球場
	11. 28～29	指定都市子ども会育成研究協議会	京都市
5	2. 11～13	金子連育成者中央会議	大阪市
	2. 1	羽根つき大会	市立体育館
	2. 20	県子連中央指導者研修会	厚木市
	5. 23	川崎市子ども会連盟総会	エポックなかほら
	5. 30	美化活動	多摩川河川敷
	7. 27～31	金子連子ども会リーダー研究集会	山口県国立徳地少年自然の家
	8. 1～ 4	指定都市ジュニアリーダー大会	横浜市野島野外研究センター
	7～ 8	川崎市子ども会野球大会	川崎球場
	11. 14～15	指定都市子ども会育成研究協議会	広島市
6	2. 6	羽根つき大会	市立体育館
	2. 9～11	金子連育成者中央会議	栃木県鬼怒川
	5. 27	指定都市市長会議	川崎市エルシー
	5. 29	川崎市子ども会連盟総会	会館とどろき
	6. 5	美化活動	多摩川河川敷
	7. 2～ 3	県子連JL研修会	足柄自然の家

年度	月 日	行 事 等	場 所
平成 6	7. 27~31	全子連子ども会リーダー研究集会	信州高遠少年自然の家
	8. 10~12	指定都市ジュニアリーダー大会	京都市
	12~13	川崎市子ども会野球大会	川崎球場
7	11. 26~27	指定都市子ども会育成研究協議会	川崎市
	2. 5	羽根つき大会	市立体育館
	2. 11	全子連育成者中央会議	広島市
	2.	阪神大震災募金 見舞金 350万円寄付	神戸市子連玉田会長に渡す
	5. 28	川崎市子ども会連盟総会	国際交流センター
	6. 3	富士急ハイランド見学	
	4	美化活動	多摩川河川敷
	7. 27~31	全子連子ども会リーダー研究集会	信州高遠少年自然の家
	8. 8~10	指定都市ジュニアリーダー大会	広島市
	8. 12~13	川崎市子ども会野球大会	川崎球場
	9. 8~10	全子連活動振興研究会	国立青少年総合センター
	10. 14	青少年育成地域活動研究会	神奈川県総合センター
	10. 21~22	指定都市子ども会育成研究協議会	札幌市
	28	県子連安全教育研修会	とどろきアリーナ
	8	1. 28	羽根つき大会（アリーナオープン記念）
2. 10~12		全子連育成者中央会議	福岡県
3. 2		県子連中央指導者研修会	県立歴史会館
5. 25		川崎市子ども会連盟総会	エポックなかはら
6. 2		美化活動	多摩川河川敷
6. 8		県子連総会	横浜市国際交流センター
6. 30		安全教育研修会（KYTの演習）	高津区役所
7. 27~31		全子連子ども会リーダー研究集会	御殿場 国立中央青年の家
8. 6~16		全子連リーダートレーニングキャンプ	岡山県
8. 15~18		指定都市ジュニアリーダー大会	川崎市青少年の家
8. 15~16		川崎市子ども会野球大会	川崎球場
10. 8		成人研修会講演会 講師 勝目、西宮氏	エポックなかはら
11. 16~17		指定都市子ども会育成研究協議	北九州市
9	2. 2	羽根つき大会	とどろきアリーナ
	8~10	全子連育成者中央会議	青森県



才. 歴代役員一覧表(昭和27年～平成8年)

役職 \ 年度	27	28	29
理事長(支部長)	(田) 小清水 黄 二	(田) 小清水 黄 二	(田) 小清水 黄 二
副理事長( " )	(大) 池 上 保 元	(大) 杉 山 武	(大) 杉 山 武
" ( " )	(中) 塩 原 三 男	(稻) 岡 本 重 辰	(高) 塩 原 三 男
理 事 ( " )	(川) 昼 間 輝 明	(川) 昼 間 輝 明	(川) 守 谷 明
" ( " )	(御) 深 瀬 正 治	(御) 原 常 吉	(御) 原 常 吉
" ( " )	(高) 中 村 信 義	(中) 渡 辺 宗 蔵	(中) 渡 辺 宗 蔵
"	(稻) 岡 本 重 辰	(高) 成 田 貞 夫	(稻) 梶 正 雄
" (推 薦)			
" ( " )			
" ( " )			
" ( " )			

役職 \ 年度	30 ~ 31	32 ~ 33	34 ~ 35
理事長(支部長)	(田) 小清水 黄 二	(田) 小清水 黄 二	(田) 小清水 黄 二
副理事長( " )	(大) 杉 山 武	(大) 杉 山 武	(大) 杉 山 武
" ( " )	(高) 塩 原 三 男	(高) 塩 原 三 男	(高) 塩 原 三 男
理 事 ( " )	(川) 守 谷 明	(川) 小清水 黄 二	(川) 金 子 正 夫
" ( " )	(御) 原 常 吉	(御) 原 常 吉	(御) 原 常 吉
" ( " )	(中) 小 林 文 太 郎	(中) 古 尾 谷 盛 太 郎	(中) 古 尾 谷 盛 太 郎
" ( " )	(稻) 梶 正 雄	(稻) 大 津 昌 義	(稻) 大 津 昌 義
"	(田) 明 石 正 蔵	(田) 明 石 正 蔵	(田) 明 石 正 蔵
" (推 薦)	(田) 岡 孝	(田) 岡 孝	(田) 岡 孝
" ( " )	(大) 小 沢 森 蔵	(大) 小 沢 森 蔵	(大) 小 沢 森 蔵
" ( " )	(御) 高 島 忠 雄	(稻) 梶 正 雄	(稻) 梶 正 雄
" ( " )			

役職 \ 年度	36 ~ 37	38 ~ 39	40 ~ 41
連 盟 長			(田) 小清水 黄 二
副連盟長 (支部長)			
理 事 長 ( " )	(田) 小清水 黄 二	(田) 小清水 黄 二	(大) 杉 山 武
副理事長 ( " )	(大) 杉 山 武	(大) 杉 山 武	(稻) 大 津 昌 義
" ( " )	(稻) 大 津 昌 義	(稻) 大 津 昌 義	(中) 古尾谷 盛太郎
理 事 ( " )	(中) 古尾谷 盛太郎	(中) 古尾谷 盛太郎	(川) 金 子 正 夫
" ( " )	(川) 金 子 正 夫	(川) 金 子 正 夫	(高) 上 形 泰 文
" ( " )	(高) 上 形 泰 文	(高) 上 形 泰 文	(御) 奥 山 勝 治
" ( " )	(御) 原 常 吉	(御) 奥 山 勝 治	(大) 大 石 正 三
" ( " )			(田) 中 島 忠 三
事 務 局 長			千 葉 重 雄
事 務 局 次 長			(大) 齊 藤 利 雄
会 計			(大) 大 石 正 三
"			(川) 蓑 浦 又 吉

役職 \ 年度	42 ~ 43	44 ~ 45	46
連 盟 長	(田) 小清水 黄 二	(田) 小清水 黄 二	(田) 小清水 黄 二
副連盟長 (支部長)		(大) 杉 山 武	(大) 杉 山 武
理 事 長 ( " )	(川) 金 子 正 夫	(川) 金 子 正 夫	(川) 金 子 正 夫
副理事長 ( " )	(田) 中 島 忠 三	(田) 中 島 忠 三	(田) 中 島 忠 三
" ( " )	(中) 田 中 宗十郎	(中) 田 中 宗十郎	(中) 田 中 宗十郎
常任理事 ( " )	(大) 杉 山 武	(御) 奥 山 勝 治	(御) 奥 山 勝 治
" ( " )	(稻) 大 津 昌 義	(高) 石 塚 卯三夫	(高) 石 塚 卯三夫
" ( " )	(御) 奥 山 勝 治		(稻) 嵩 村 正 次
" ( " )		(稻) 梶 正 雄	
" ( " )	(川) 青 木 正 人	(川) 青 木 正 人	(川) 青 木 正 人
事 務 局 長	(田) 横 山 幹 男	(田) 両 角 章	(田) 両 角 章
事 務 局 次 長		(御) 高 橋 清	(御) 高 橋 清
会 計	(御) 辻 正 人	(川) 蓑 浦 又 吉	(川) 蓑 浦 又 吉
"	(川) 蓑 浦 又 吉	(御) 辻 正 人	(御) 辻 正 人

役職	年度	47	48 ~ 49	50 ~ 51
連 盟 長		(田) 小清水 黄 二	(田) 小清水 黄 二	(川) 金 子 正 夫
副連盟長 (支部長)		(大) 杉 山 武	(大) 杉 山 武	(大) 杉 山 武
理 事 長 ( " )		(川) 金 子 正 夫	(川) 金 子 正 夫	(田) 中 島 忠 三
副理事長 ( " )		(田) 中 島 忠 三	(田) 中 島 忠 三	(多) 滝 村 正 次
" ( " )		(多) 滝 村 正 次	(多) 滝 村 正 次	(幸) 河 田 四 郎 蔵
常任理事 ( " )		(幸) 河 田 四 郎 蔵	(幸) 河 田 四 郎 蔵	(中) 井 口 芳 三
" ( " )		(中) 山 口 清 治	(中) 山 口 清 治	(高) 西 田 保
" ( " )		(高) 新 井 愛 助	(高) 新 井 愛 助	(田) 滝 口 長 市
" ( " )		(川) 青 木 正 人	(川) 土 屋 長 二 郎	(川) 土 屋 長 二 郎
事 務 局 長		(田) 両 角 章	(田) 両 角 章	(中) 辻 正 人
事 務 局 次 長		(幸) 高 橋 清	(幸) 高 橋 清	(幸) 高 橋 清
会 計		(川) 養 浦 又 吉	(川) 養 浦 又 吉	(川) 養 浦 又 吉
"		(中) 辻 正 人	(高) 西 田 保	

役職	年度	52 ~ 53	54 ~ 55	56 ~ 57
連 盟 長 (支部長)		(川) 金 子 正 夫		(田) 中 島 忠 三
副連盟長 ( " )		(大) 杉 山 武		
理 事 長 ( " )		(田) 中 島 忠 三	(田) 中 島 忠 三	(中) 井 口 芳 三
副理事長 ( " )		(幸) 河 田 四 郎 蔵	(幸) 河 田 四 郎 蔵	(幸) 河 田 四 郎 蔵
" ( " )		(中) 井 口 芳 三	(中) 井 口 芳 三	(高) 西 田 保
常任理事 ( " )		(高) 西 田 保	(大) 杉 山 武	(川) 金 子 正 夫
" ( " )		(多) 山 崎 雅 彦	(高) 西 田 保	(大) 杉 山 武
" ( " )		(稲) 中 臣 喜 作	(川) 金 子 正 夫	(多) 小 清 水 満
" ( " )			(多) 山 崎 雅 彦	(稲) 中 臣 喜 作
" ( " )		(田) 滝 口 長 市	(稲) 中 臣 喜 作	(田) 滝 口 長 市
" ( " )		(川) 土 屋 長 二 郎	(田) 滝 口 長 市	(中) 大 木 作 吉
事 務 局 長		(中) 辻 正 人	(中) 辻 正 人	(中) 辻 正 人
事 務 局 次 長		(幸) 高 橋 清	(幸) 高 橋 清	(幸) 高 橋 清
会 計		(川) 養 浦 又 吉	(川) 養 浦 又 吉	(川) 養 浦 又 吉
"				(高) 越 川 博



役職 \ 年度	58 ~ 59	60 ~ 61	
連盟長(支部長)	(川)中島忠三	(川)中島忠三	
副連盟長(支部長)			
理事長( " )	(中)井口芳三	(中)井口芳三	
副理事長( " )	(幸)河田四郎藏	(幸)河田四郎藏	
" ( " )	(高)西田保	(高)西田保	
常任理事( " )	(宮)三宅丈夫	(宮)三宅丈夫	
" ( " )	(多)松沢誠治	(多)松沢誠治	
" ( " )	(麻)井上和征	(麻)井上和征	
" ( " )			
" ( " )	(川)杉山武	(川)飯塚夏造	
" ( " )	(中)大木作吉	(中)大木作吉	
事務局長	(中)辻正人	(中)辻正人	
事務局次長	(幸)高橋清	(幸)高橋清	
会計	(中)広岡昭夫	(中)広岡昭夫	
"	(多)吉沢勘寿	(多)吉沢勘寿	

役職 \ 年度	62	63	元年 ~ 2
連盟長(区子連会長)	(川)中島忠三	(川)中島忠三	(川)中島忠三
副連盟長( " )	(宮)三宅丈夫	(宮)三宅丈夫	(宮)三宅丈夫
理事長( " )	(中)井口芳三	(中)井口芳三	(中)井口芳三
副理事長( " )	(高)西田保	(高)西田保	(高)西田保
" ( " )	(多)松沢誠治	(多)松沢誠治	(麻)井上和征
常任理事(区子連)	(麻)井上和征	(麻)井上和征	(幸)石野実
" ( " )	(川)飯塚夏造	(幸)石野実	(多)井田肇
" ( " )	(中)大木作吉	(川)飯塚夏造	(川)飯塚夏造
" ( " )	(幸)和田義雄	(中)大木作吉	(中)大木作吉
事務局長	(中)辻正人	(中)辻正人	(中)辻正人
事務局次長	(幸)高橋清	(幸)高橋清	(幸)高橋清
会計	(中)広岡昭夫	(中)広岡昭夫	(中)広岡昭夫
"	(幸)石野実	(幸)松本充孝	(中)本池虹児

役職	年度	3 ~ 4	5 ~ 6	7 ~ 8
連盟長 (区子連会長)		(川) 中 島 忠 三	(川) 中 島 忠 三	(川) 中 島 忠 三
副連盟長 ( " )		(高) 西 田 保	(高) 西 田 保	(高) 西 田 保
" ( " )		(麻) 井 上 和 征	(宮) 三 宅 丈 夫	(宮) 三 宅 丈 夫
" ( " )		(宮) 三 宅 丈 夫	(多) 井 井 田 米 山	(幸) 小 保 方 健 次
" ( " )		(多) 井 田 肇	(中) 大 木 作 吉	(麻) 山 崎 優
" ( " )		(中) 大 木 作 吉	(幸) 小 保 方 健 次	(中) 辻 正 人
" ( " )		(幸) 小 保 方 健 次	(麻) 山 崎 優	(多) 米 山 敏 彦
常任理事 (国際交流)		(川) 飯 塚 夏 造		
" (文化広報)		(幸) 中 村 照 夫	(幸) 中 村 照 夫	(幸) 中 村 照 夫
" (事務局)		(中) 本 池 虹 児	(中) 辻 正 人	(川) 井 飯 塚 夏 造
" (安全教育)		(高) 佐 久 間 昭 司	(高) 佐 久 間 昭 司	(高) 佐 久 間 昭 司
" (成人指導者研)		(宮) 吉 井 勇	(宮) 吉 井 勇	(宮) 吉 井 勇
" (青少年養成)		(多) 米 山 敏 彦	(多) 米 山 敏 彦	(多) 榎 本 義 夫
" (体 育)		(麻) 森 繁 之	(麻) 森 繁 之	(麻) 森 繁 之
" (JL養成)			(川) 飯 塚 夏 造	(中) 永 塚 勝 武
事 務 局 長		(中) 辻 正 人	(幸) 高 橋 清	(中) 井 本 池 虹 児
事 務 局 次 長		(幸) 高 橋 清		(川) 木 村 英 男
会 計		(川) 岩 井 茂	(多) 吉 沢 勘 寿	(多) 吉 沢 勘 寿
"		(宮) 吉 田 茂	(宮) 吉 田 茂	(宮) 吉 田 茂

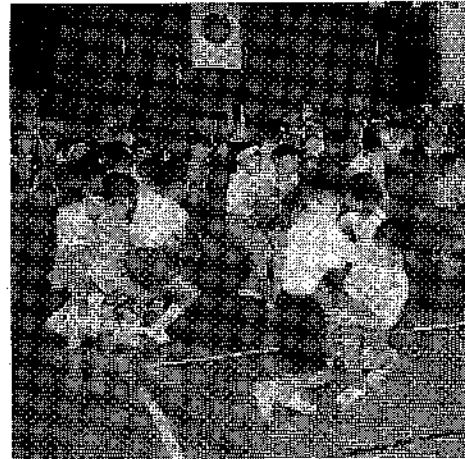
## (2) ボーイスカウトのあゆみ

### ア. 発 足

今日川崎市は、政令指定都市として、人口120万を数える大都市の仲間入りをして、産業文化都市に成長しているが、思い起こす50年前のあの姿は、精神的な面からも、物質的な面からも、到底、都市としての体面を保っているとは思えないほど疲弊のどん底にあった。

戦火による丸焼けの巷には、被災した浮浪者がそこかしこにたむろし、親を失い頼るものもない少年のさまよう姿があった。

学校校舎も大半を失い、青空教室のやむない状態もあった。こうした世相の中で必然的に青少年は不良化の道をたどるものも多かった。この様な混乱の中から青少年を不良化から守ろう、その健全な育成を助け、純真さを蘇らせ明るく楽しい活動と生活を与えなければならぬと、民間有志の手によって結成されたのが川崎市青少年補導連盟であった。後「川崎市青少年育成連盟」と改称され今日に至っているのである。この団体の中核をなしていたのは子ども会であった。その



子ども会も昭和25年頃までは、社会人組織の弱い面から組織活動も指導者の養成確保も、そして中、高校生対策の欠如等から十分な成果をあげることのできないのが実情であった。

こうした時、ボーイスカウト運動が紹介されたのである。

ボーイスカウト運動は、1907年、ベーデン・パウエル（イギリス）によって提唱され世界中に広まった青少年に対する健全育成運動で、独特の理念と活動方法によって人間形成の方法を打ち立てたものである。

その目的は、一言でいうならば現在および未来にかけての、信頼に価する善良で有為な人間をつくることにあるといえよう。言いかえれば、公民として、家庭においても学校においても社会においても、さらに職域においても立派な男性であり、国民として、国際人として世界に通用する人間を育てることにある。この対象が少年・青年であるだけにボーイスカウト運動は次代を担う人間の育成であるといえる。

したがって、この運動は、青少年がその自発活動により、自らの健康を保持し、社会に奉仕し得る能力と人生に有用な技能を体得し、かつ誠実、勇気、自信および国際愛と人道主義を把握し、実践しうるよう3つのちかいと8つのおきてを自らの支えとして、主に野外活動を展開しているのである。

昭和25年に川崎第1隊、第2隊と発隊してから昭和32年までに第20隊まで発隊した。昭和33年日本連盟規約改正で隊は団となり、同年21団、22団、23団、24団と発団が相次ぎ、昭和61年55団が40団から分封発団した。しかし、実際に活動しているのは27ヶ団である。

なお、本市のこの運動に対しては、官公庁をはじめ、企業体、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、その他多くの市民有志の方々の暖かい理解と援助を頂き一飛躍を遂げたことに対し、心から感謝すると共に、今後は一層ご期待に副うべく活躍を続ける覚悟を新たにすることである。

昭和62年から平成8年までの10年間の川崎地区の加盟員の状況は、対象年齢の人口減少、各種スポーツクラブの誕生などの障壁によって、地区をあげ



ての組織の拡張に取り組んではいるものの、その成果はあまり上っていないのが、現実である。スカウトの減少で8つの団が消滅してしまったのは、誠に残念なことである。

その一方で、平成7年にビーバースカウト（小学1年～小学2年）からの女子の導入に日本連盟が踏切った結果、平成8年10月末現在女子の占める割合が10%を越えるところまでになっている。

また、改革のその2としては、制服等が全面的に改められた。

アメリカの著名なデザイナーであるラルフローレンによりデザインされた制服は中国産の綿布で、中国で縫製されたもので長ズボンになり正帽もハットからベレー帽に変わった。しかし、変わってみると昔の物の方の良さがいくつも出てきて残念がる人も多くなっている。

21世紀の日本を背負う青少年に少しでも国際感覚を身につけてほしいという願いをこめて、昭和60年、川崎地区設立35周年を記念して、川崎市と姉妹都市の関係にあるアメリカのメリーランド州ボルチモア市へ、スカウト・リーダーの派遣を川崎市の絶大なご支援を頂き実施し、大きな成果をあげることができた。翌年の昭和61年にはアメリカから来川という具合に、順調に相互の派遣が行われ、ホームステイによる異文化の相互理解も深まってきた。

平成6年には、10年の節目を迎え、ボルチモアからスカウト・リーダーが来川し、盛大に記念式典を挙行了した。また、記念誌も発行した。その後も引き続いて実施している。

顧問、相談役で地区に多大な貢献をされた小林英男、秋山六郎両氏が昭和62年にあいついで他界されました。地区役員の中で名物的存在であった馬場義三郎氏が平成4年に、大山貞義氏が平成8年に他界されましたことはまことに惜しむべきことであり、慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

#### イ. 年 表

年度	月 日	行 事 等	場 所
S 25	8. 4～ 9 11. 21	第2回全国野営大会 25名隊員参加 地区委員会結成	山形県蔵王
27	8. 7～10 10. 26	第3回県連野営大会 川崎地区創立1周年記念技能大会	箱根須雲川 宮前小学校庭
28	3. 10. 17～18	第4回県連野営大会 参加スカウト 1,300名 川崎地区結成3周年大会	向ヶ丘遊園地 南部大師公園 北部日医大敷地

年度	月 日	行 事 等	場 所
S 29	8. 11.	第1回川崎地区野営大会 参加 240名 地区記念祭パレード	玄倉川畔
30	2. 20 11. 3	B-P祭 1級スカウト3名誕生 神奈川連盟創立5周年記念大会 参加 100名	川崎公民館 横浜老松小学校
31	8. 3~7	第1回日本ジャンボリー県連派遣団長 小清水黄二 川崎地区 小林英男以下 129名参加	軽井沢高原
32	1. 7 8. 9.	冬期雪中訓練キャンプ 参加32名 関東ブロック大会 代表参加 中華民国童子軍来川 (台湾ボーイスカウト)	箱根強羅 銚子
33	1. 3.	地区臨時総会 川崎地区協議会 川崎地区委員会	(日本連盟規約 改正により、隊は団と なる。団の中にカブ隊、ボーイ隊、シ ニア隊、ローバー隊。)
34	8. 8.	第10回世界ジャンボリー参加代表川崎第5団より3名 第2回日本ジャンボリー 224名参加	
35	8. 12~15 10. 30	地区10周年記念合同野営大会 200名参加 川崎市青少年補導連盟10周年記念式参加 川崎市地区協議会10周年記念式典挙行	千葉県富津 川崎競輪場
36	7. 8. 9.	伊勢崎地区隊来川 県連ジャンボリー 伊勢崎地区訪問交換	横須賀小原台
37	8.	第3回日本ジャンボリー団長 小清水黄二 参加 402名	御殿場
38	3. 8. 8. 7~10	全国カブラリー 地区合同野営大会 地区野営大会	神奈川大会 西丹沢 秋川溪谷

年度	月 日	行 事 等	場 所
S 40	8. 5～7	地区合同野営大会	山中野営場
41	8. 3～10	第4回日本ジャンボリー 163名参加	岡山県日本原
	10. 23	地区記念祭	旭町小学校
42	4. 2	関東カブラリー	高崎観音山
	11. 3	地区カブラリー	三浦海岸
43	8. 14～18	県合同野営大会 220名参加	三浦市城ヶ島
	10. 26	地区創立18周年記念式	富士見中体育館
44	8. 2～11	沖繩親善キャンプ	沖繩伊武部ビーチ
45	8. 5～10	第5回日本ジャンボリー	朝霧高原
	10. 11	地区20周年記念式典・スカウト展	東芝体育館、さいか屋
	12. 25	長谷川前地区コミッショナー逝去	
46	2. 21	地区B-P祭(以後地区行事として行われた)	東住吉小学校
	6. 13	都市対抗応援団パレード	市街
	8. 2～11	第13回世界ジャンボリー参加	朝霧高原
	11. 20～21	GB訓練会(以後定期的に実施)	青少年の家
47	1. 14～18	冬期キャンプ	山中野営場
	3. 18～20	白梅隊訓練会(以後毎年行われた)	五日市町
	8. 5	関東カブラリー	群馬県桐生市
	10. 22	第22回地区記念祭	東住吉小学校
48	9. 29～30	オーバーナイトハイク(以後定期的行事)	横須賀地方
49	5. 19	ラブリバー奉仕(以後毎年の行事)	多摩川河川敷
	8. 1～6	第6回日本ジャンボリー	北海道千歳原
	11. 2～3	地区ラリー(カブラリーと合同)	こどもの国
50	7. 6	故小清水黄二名誉協議会長告别式	麻布善福寺
51	10. 30	青少年育成連盟創立30周年記念式典	産業文化会館

年度	月 日	行 事 等	場 所
S 51	11. 7	青少年育成連盟創立30周年記念式典 パレード	川崎競輪場
	3. 3~10	市青少年育成連盟創立30周年活動展	中原市民館
52	5. 29	ゴールデンアックストレーニング (GATC) 発隊式	多摩農協会館 朝霧高原
	8. 1	9 K C派遣団外国スカウト (フィリピン) 歓迎の夕	
	8. 4~ 8	第9回神奈川キャンボリー (9 K C) 参加	
	12. 26	年末たすけあい運動募金 (以後毎年の行事)	
53	8. 4~ 8	第7回日本ジャンボリー (7 N J) 参加	富士・滝ヶ原 那須野営場 鶴見総持寺 富士見公園
	8. 15~17	年長隊特技訓練会	
	10. 29	神奈川県連盟副連盟長 故鈴木一夫氏葬儀	
	11. 4~ 6	市民まつり奉仕 (以後要請時参加)	
54	7. 23~27	海上自衛隊体験入隊 (S S 隊)	横須賀
	11. 9	スカウトフォーラム	中原市民館
55	5. 17~18	野営法研究会	大師平間寺 中原カトリック教会 スカウト会館
	6. 27	前地区協議会長 故宮川貞治氏葬儀	
	9. 7	ガーデンパーティー	
	10. 26	スカウト会館落成式 (県連) 祝賀会	
56	1. 18	地区30周年記念式典 1,500名参加	産業文化会館
	10.	スペシャルオリンピック奉仕	藤沢市
57	2. 20	日連60周年記念オープニングセレモニー参加	明治神宮会館
	8. 2~ 6	第8回日本ジャンボリー 202名参加	宮城県南蔵王
	10. 16~17	地区ローバームート	39団野営場
58	3. 26	日米フレンドシップパトローリー	南多摩米軍キャンプ
	6. 5	スカウトバンドの集い	市体育館
	12. 14	古尾谷協議会長市民文化賞受賞祝賀会	ザ・エルシー
59	2. 16~21	県連スカウト展	相鉄ジョイナス
	7. 27~8. 4	第1回シニア大会 36名参加 14名奉仕	宮城県南蔵王
	10. 16	第1回県連ビーバー隊研究集会	スカウト会館
	12. 7	第1回横浜地区との交流会	新城

年度	月 日	行 事 等	場 所
S 59	12. 18	増子教育委員長叙勲祝賀会	サンルート川崎
60	3.26~4. 4	洋上スカウティング“神奈川の船” 54名参加	横浜、サイパン、グァム
	7. 7	地区賛助会設立総会	総合自治会館
	7. 19	ボルチモア市ボーイスカウト交流派遣隊出発 14名参加	ボルチモア
	7.28~8. 5	GATC北海道第4回シニア大会 26名参加	北海道
	7.15~7.16	地区創立35周年記念ラリー	南多摩米軍キャンプ
61	1. 15	成人式奉仕	産業文化会館
	8. 2~8.16	第9回日本ジャンボリー 160名参加 60名奉仕	宮城県南蔵王
62	4. 19	地区総会	中原市民館
	26	県連総会	日産会館
	5. 3	横浜みなと祭り奉仕	横浜市街
	5. 5	こども遊園会奉仕	向ヶ丘遊園
	16	全国会議	県立青少年センター
	7. 12	ボルチモア派遣隊出発式	市役所前
	27	ボルチモア少年野球団歓迎式	“
	8. 15	川崎市戦没者追悼式奉仕	夢見ヶ崎公園
	11. 3	川崎市民祭り奉仕	川崎球場周辺
63	2. 7	地区B-P祭	中原市民館
	4. 17	地区総会	“
	5. 3	横浜みなと祭り奉仕 (70名参加)	関内周辺
	5	こども遊園会奉仕 (30名参加)	向ヶ丘遊園
	7.29~8. 5	第2回ベンチャー大会(2NV)	朝霧高原
	9. 7	元日本連盟総裁 故土光敏夫氏合同葬奉仕	
	11	地区ラリー	等々力緑地
	10. 1	オーストラリア、ウーロンゴ市吹奏楽団演奏会及び交流会	市立青少年の家
	12. 26	故三木武夫氏合同葬奉仕	
H 1	1. 15	成人式奉仕 (44名奉仕)	産業文化会館
	1.	大喪の礼参列(ローバースカウト10名)	新宿御苑
	3.31~4. 2	日米フレンドシップパトローリー	南多摩
	4. 16	地区総会	中原市民館
	5. 3	横浜みなと祭り奉仕	横浜港周辺



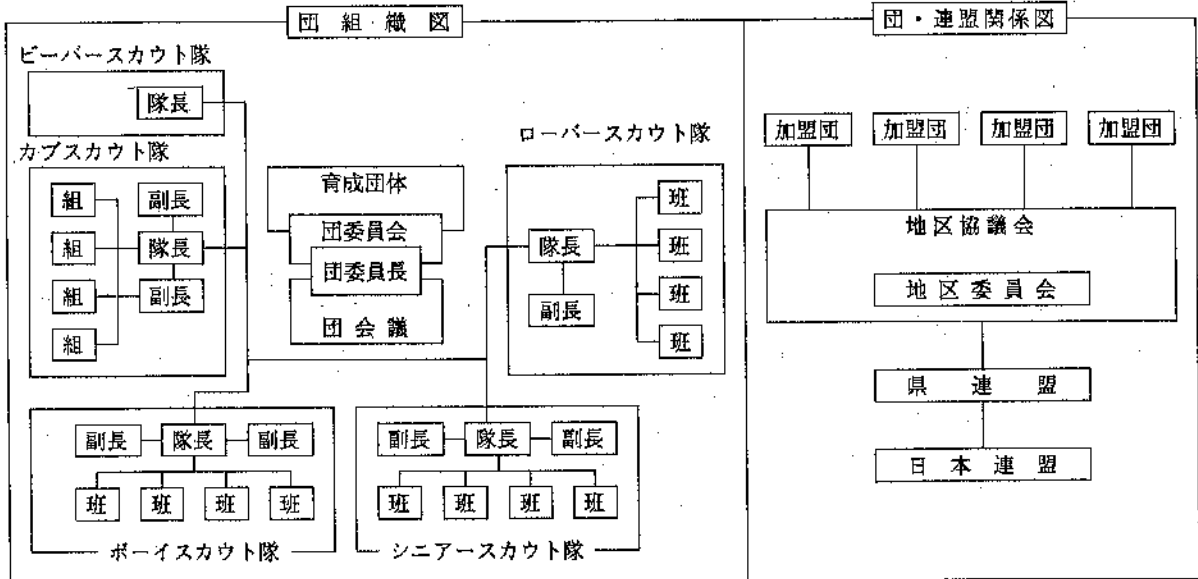
年度	月 日	行 事 等	場 所
H 1	5. 5	こども遊園会奉仕	向ヶ丘遊園
	8. 3～7	第10回神奈川キャンポリー (10K C)	朝霧高原
	15	川崎市戦没者追悼式奉仕	夢見ヶ崎公園
	9. 17	地区ラリー	等々力緑地
	11. 3～5	川崎市民祭り奉仕	富士見公園周辺
2	1. 15	成人式奉仕	産業文化会館
	4. 15	地区総会	市立青少年の家
	"	ライオンズクラブ国際協会 330-B年次総会奉仕 (40名奉仕)	川崎駅周辺
	5. 3	横浜みなと祭り奉仕 (68名奉仕)	伊勢佐木町周辺
	5	こども遊園会奉仕 (30名奉仕)	向ヶ丘遊園
	7. 8	第1回地区ビーバー祭り	住吉小学校
	7. 30～31	ボルチモアスカウト来川、市長表敬訪問	
	8. 3～7	第10回日本ジャンボリー (10N J)	妙高高原
	9. 15～16	葵ライオンズクラブ川崎大会奉仕	小杉駅周辺
	24	地区創立40周年記念地区ラリー	等々力緑地
	11. 3～4	川崎市民祭り奉仕 (42名奉仕)	川崎球場周辺
	11. 17	即位の礼(ちょうちん行列警備)奉仕	銀座周辺
	12. 25	歳末助け合い募金市長への手渡し	市役所
	3	1. 15	成人式奉仕 (48名奉仕)
2. 17		地区創立40周年記念式典	麻生市民館ホール
4. 14		地区総会	青少年の家
28		県連総会	横須賀信金ホール
5. 3		横浜みなと祭り奉仕	山下公園周辺
5		こども遊園会奉仕	向ヶ丘遊園
7. 7		第2回地区ビーバー祭り	住吉小学校
24～8. 10		ボルチモア市ヘスカウト・リーダー派遣	
25		ボルチモア市バレーボールチームさよならパーティー奉仕	青少年の家
27		サマーグレイメイトスクール奉仕	旭町青少年ホール
8. 19～23		英国スカウター来川、歓迎行事	
31		川崎市防災訓練奉仕	幸区古市場河川敷
9. 15		スカウトの日 (カントリー大作戦)	全市域
29		地区ラリー	こどもの国
11. 2～4		川崎市民祭り奉仕	富士見公園周辺
16～17		第6回AKSC	黒川野外活動センター

年度	月 日	行 事 等	場 所	
H 4	1. 15	成人式奉仕 (61名奉仕)	教育文化会館	
	4. 12	地区総会	青少年の家	
	26	県連総会	藤沢市民館	
	5. 3	横浜みなと祭り奉仕 (60名奉仕)	山下公園周辺	
	5	こども遊園会奉仕	向ヶ丘遊園	
	7. 5	第3回地区ビーバー祭り	住吉小学校	
	10	ウーロンゴ教育交流団来川交流会	KSPホール	
	26	ボルチモアスカウト・リーダー来川		
	29~8. 3	ボルチモアスカウト歓迎キャンプ	日連山中野営場	
	8. 3~10	第3回ベンチャー大会 (3NJ) 18名参加	滋賀県養庭野高原	
	15	川崎市戦没者追悼式奉仕	夢見ヶ崎公園	
	27	防災フェア '92パレード参加	川崎駅周辺	
	9. 15	スカウトの日 (カントリー大作戦)	市内全域	
	10. 18	国際ロータリー 第2590地区大会奉仕	川崎駅・教育文化会館	
	11. 1~3	川崎市民祭り奉仕 (35名参加)	富士見公園周辺	
	22~23	第7回AKSC	黒川野外活動センター	
	12. 12~13	県連スカウトフォーラム	ひらつか天城山荘	
	5	1. 15	成人式奉仕 (43名奉仕)	教育文化会館
		4. 18	地区総会	青少年の家
29		県連総会	茅ヶ崎市民文化会館	
5. 3		横浜みなと祭り奉仕	山下公園周辺	
5. 5		こども遊園会奉仕	向ヶ丘遊園	
15		川崎マリンロータリー奉仕		
15~16		日連年次総会	広島	
6. 27		第4回地区ビーバー祭り	住吉小学校	
7. 11		県連スカウトラリー	三浦半島	
21		ボルチモア派遣隊出発		
8. 15		川崎市戦没者慰霊式奉仕	夢見ヶ崎公園	
9. 15		スカウトの日 (カントリー大作戦)	市内全域	
26		地区ラリー	こどもの国	
11. 5		川崎市民祭り奉仕 (50名奉仕)	富士見公園周辺	
20~21		第8回AKSC	黒川野外活動センター	
12. 4		堀田協議会長文部大臣表彰祝賀会	総合自治会館	
11~12		県連スカウトフォーラム	平塚市琵琶青少年の家	
24		歳末助け合い募金市長への手渡し (代表スカウト)	川崎市役所	

年度	月 日	行 事 等	場 所	
H 6	1. 15	成人式奉仕 (54名奉仕)	教育文化会館	
	4. 5	ライオンズクラブ総会奉仕 (奉仕者38名)	教育文化会館	
	4. 17	地区総会	青少年の家	
	24	県連総会	相模原文化会館	
	5. 3	横浜みなと祭り奉仕 (96名奉仕)	山下公園周辺	
	5	こども遊園会奉仕	向ヶ丘遊園	
	15	日連年次総会	三重県鈴鹿市	
	6. 26	第5回地区ビーバー祭り	三菱自動車平間会館	
	7. 1	市制70周年記念式典(地区協議会表彰)	川崎市役所	
	7. 24	ボルチモアスカウト来川・市長表敬訪問	川崎市役所	
	7. 25	川崎・ボルチモア交流派遣10周年記念式典	中小企業婦人会館	
	8. 3~7	第11回日本ジャンボリー (11NJ)	大分県久住高原	
	15	川崎市戦没者慰霊式奉仕	夢見ヶ崎公園	
	9. 15	スカウトの日 (カントリー大作戦)	全市域	
	18	地区ラリー	中原平和公園	
	11. 3~6	川崎市民祭り奉仕 (奉仕者54名)	富士見公園周辺	
	19~20	第9回AKSC	黒川野外活動センター	
	12. 10~11	県連スカウトラリー	日連山中野営場	
	12. 21	中島子ども会連盟長社会功労表彰賀会	ザ・エルシー	
	22	歳末助け合い募金市長への手渡し(代表スカウト)	川崎市役所	
	7	1. 15	成人式奉仕 (奉仕者62名)	教育文化会館
		4. 16	地区総会	青少年の家
23		県連総会	秦野商工会議所会館	
5. 3		横浜みなと祭り奉仕 (奉仕者92名)	関内周辺	
5. 20		日連年次総会	京都	
6. 4		多摩川美化運動(ラブリバー)	多摩川河川敷	
6. 25		第6回地区ビーバー祭り	住吉小学校	
7. 22		ボルチモア派遣隊出発		
8. 8		川崎市戦没者慰霊式奉仕(ベンチャー試行隊)	夢見ヶ崎公園	
9. 15		スカウトの日(カントリー大作戦)	市内全域	
24		地区ラリー	中原平和公園	
11. 3		県連スカウトフェスター '95 (770名参加)	こどもの国	
3~5		川崎市民祭り奉仕 (奉仕66名)	富士見公園周辺	
18~19		第10回AKSC	三浦ふれあいの村	
12. 26		歳末助け合い募金市長への手渡し(代表スカウト)	川崎市役所	

年度	月 日	行 事 等	場 所
H 8	1. 15	成人式奉仕 (61名奉仕)	とどろきアリーナ
	2. 6	川崎市青少年健全育成成功労者表彰 (市長より) 6名受彰	いさご会館
	3. 3	川崎青少年フェスティバル奉仕 (奉仕者35名)	とどろきアリーナ
	4. 14	地区総会	青少年の家
	21	県連総会	小田原市民館
	5. 3	横浜みなと祭り (90名奉仕)	山王橋周辺
	5. 6	こども遊園会 (10名奉仕)	向ヶ丘遊園
	26	地区賛助会総会	総合自治会館
	6. 2	多摩川美化運動 (ラブリバー)	多摩川河川敷
	7. 7	第7回地区ビーバー祭り	住吉小学校
	8. 27	ボルチモアスカウト・リーダー来川、市長表敬訪問	
	9. 8	平和キャンペーン (ガールスカウト主催) 参加	中原平和館
	9. 15	スカウトの日 (カントリー大作戦)	市内全域
	29	地区ラリー	中原平和公園
	11. 2 ~ 4	川崎市民祭奉仕	富士見公園周辺
	11.30-12.1	第11回AKSC	日本連盟山中野営場
12. 24	歳末助け合い募金市長への手渡し (代表スカウト)	川崎市役所	

ウ 組 織



エ 歴代役員一覧表

年度	地区協議会長	副協議会長	地区委員長	副地区委員長	地区コミッショナー	副地区コミッショナー	事務長
25			小清水黄二	小林 英男			
26			小清水黄二	小林 英男	柏倉 秀和		柏倉 秀和
27			小清水黄二	小林 英男 篠崎 真作	柏倉 秀和		柏倉 秀和
28			小清水黄二	小林 英男	柏倉 秀和		柏倉 秀和
29			小清水黄二	小林 英男	柏倉 秀和		柏倉 秀和
30			小清水黄二	小林 英男	寺本 博	高田 博正	柏倉 秀和
31			小清水黄二	小林 英男	寺本 博	高田 博正	柏倉 秀和
32			小清水黄二	小林 英男 鈴木 一夫	高田 博正		長谷川雅秀
33	小清水黄二	篠崎 真作	小清水黄二	小林 英男 鈴木 一夫	高田 博正	依田 功 神崎栄一郎	長谷川雅秀
34	小清水黄二	篠崎 真作	小林 英男	鈴木 一夫 児玉 一男	高田 博正	依田 功 神崎栄一郎	長谷川雅秀
35	小清水黄二	鈴木 一夫	小林 英男	児玉 一男 石井 英夫	高田 博正	神崎栄一郎	柏倉 秀和
36	小清水黄二	鈴木 一夫 児玉 一男	小林 英男	柏倉 秀和 高田 博正	神崎栄一郎	平川 栄吉	久保内三郎
37	小清水黄二	小林 英男 児玉 一男	柏倉 秀和	高田 博正	山田 利雄	神崎栄一郎 平川 栄吉 依田 功	久保内三郎
38	小清水黄二	小林 英男 児玉 一男	柏倉 秀和	沓掛 頼庸 高田 博正	山田 利雄	平川 栄吉 神崎栄一郎	吉田 尚弘
39	小清水黄二	小林 英男 児玉 一男	高田 博正	小野 太郎 大橋 進	柏倉 秀和	平川 栄吉	長谷川雅秀
40	小清水黄二	児玉 一男 小野 太郎 高田 博正 (11月より)	高田 博正 山田 利雄 (11月より)	大橋 進 馬場義三郎	柏倉 秀和	平川 栄吉 岩崎 貞	長谷川雅秀
41	小清水黄二	児玉 一男 小林 英男 鈴木 一夫 小野 太郎 石井 英夫	山田 利雄	高田 博正 柏倉 秀和	長谷川雅秀	平川 栄吉 岩崎 貞 佐々木孝夫	中村 正義

年度	地区協議会長	副協議会長	地区委員長	副地区委員長	地区 コミッショナー	副地区 コミッショナー	事務長
42	宮川 貞治	児玉 一男 石井 英夫	高田 博正	沓掛 頼庸	長谷川雅秀	岩崎 貞 佐々木孝夫 平川 栄吉	中村 正義
43	宮川 貞治	児玉 一男 石井 英夫	高田 博正	沓掛 頼庸	長谷川雅秀	中村 正義 佐々木孝夫	岩崎 貞
44	宮川 貞治	児玉 一男 石井 英夫	高田 博正	沓掛 頼庸	長谷川雅秀	中村 正義 佐々木孝夫	岩崎 貞
45	宮川 貞治	児玉 一男 石井 英夫 秋山 六郎	高田 博正	大山 貞義	中村 正義	馬場義三郎 吉沢 和雄	岩崎 貞
46	宮川 貞治	児玉 一男 石井 英夫 秋山 六郎	高田 博正	沓掛 頼庸	中村 正義	吉沢 和雄 岩崎 貞	馬場義三郎
47	宮川 貞治	児玉 一男 石井 英夫 秋山 六郎	高田 博正	吉沢 和雄	大山 貞義	橋本 広茂 鈴木 実	馬場義三郎
48	宮川 貞治	児玉 一男 秋山 六郎 古尾谷盛太郎	高田 博正	沓掛 頼庸 吉沢 和雄 永見 次男	大山 貞義	橋本 広茂 鈴木 実 佐々木孝夫	馬場義三郎
49	古尾谷盛太郎	児玉 一男 秋山 六郎 高田 博正	吉沢 和雄	沓掛 頼庸 永見 次男 岩崎 貞	佐々木孝夫	橋本 広茂 鈴木 実 平川 栄吉	馬場義三郎
50	古尾谷盛太郎	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 高田 博正	吉沢 和雄	沓掛 頼庸 永見 次男 岩崎 貞	佐々木孝夫	橋本 広茂 鈴木 実 平川 栄吉	馬場義三郎
51	古尾谷盛太郎	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 高田 博正 柏倉 秀和	吉沢 和雄	永見 次男 岩崎 貞 金田幸之助	馬場義三郎	橋本 広茂 鈴木 実 平川 栄吉	大橋信太郎
52	古尾谷盛太郎	山田 利雄 児玉 一男 秋山 六郎 高田 博正 柏倉 秀和	永見 次男	岩崎 貞 金田幸之助	馬場義三郎	橋本 広茂 鈴木 実 平川 栄吉	大橋信太郎

年度	地区協議会長	副協議会長	地区委員長	副地区委員長	地区コミッショナー	副地区コミッショナー	事務長
53	古尾谷盛太郎	山田利雄 児玉一男 秋山六郎 柏倉秀和	永見次男	金田幸之助 佐川直道	馬場義三郎	橋本広茂 鈴木実	大橋信太郎
54	古尾谷盛太郎	山田利雄 児玉一男 秋山六郎 柏倉秀和	佐川直道	屋明貞 近江広之	橋本広茂	鈴木実誠 芳賀	大橋信太郎
55	古尾谷盛太郎	山田利雄 児玉一男 秋山六郎 柏倉秀和	佐川直道	屋明貞 近江広之	橋本広茂	鈴木実誠 芳賀秋田	大橋信太郎
56	古尾谷盛太郎	山田利雄 児玉一男 秋山六郎 柏倉秀和	佐川直道	屋明貞 近江広之	橋本広茂	鈴木実誠 芳賀秋田	大橋信太郎
57	古尾谷盛太郎	山田利雄 児玉一男 秋山六郎 柏倉秀和	佐川直道	屋明貞 近江広之	橋本広茂	鈴木実誠 芳賀秋田	大橋信太郎
58	古尾谷盛太郎	山田利雄 児玉一男 秋山六郎 柏倉秀和	近江広之	河合武夫 高橋和雄	鈴木実	佐川直道 芳賀誠清 秋田	屋明貞
59	古尾谷盛太郎	山田利雄 児玉一男 秋山六郎 柏倉秀和	近江広之	河合武夫 高橋和雄	鈴木実	芳賀誠清 秋田直道 佐川	屋明貞
60	古尾谷盛太郎	山田利雄 児玉一男 柏倉秀和 永見次男	近江広之	河合武夫 高橋和雄	鈴木実	芳賀誠清 秋田島 田島宜彦	屋明貞
61	古尾谷盛太郎	山田利雄 児玉一男 柏倉秀和 永見次男	近江広之	河合武夫 高橋和雄 橋本広茂	屋明貞	秋山潔 田島宜彦	花形勝

年度	地区協議会長	副協議会長	地区委員長	副地区委員長	地区コミッショナー	副地区コミッショナー	事務長
62	児玉 一男	山田 利雄 柏倉 秀和 永見 次男 杵掛 頼庸	近江 広之	河合 武夫 高橋 和雄 橋本 広茂	屋 明貞	田島 宜彦	花形 勝
63	児玉 一男	柏倉 秀和 杵掛 頼庸 堀田 利則 馬場 義三郎	河合 武夫	橋本 広茂 坂谷 昭一	屋 明貞	田島 宜彦 鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治	花形 勝
H 元	児玉 一男	柏倉 秀和 杵掛 頼庸 堀田 利則 馬場 義三郎 石井 章夫	河合 武夫	坂谷 昭一 屋 明貞 橋本 博	渡部 公	鈴木 実 小路 忠臣 町田 良治 秋田 清	花形 勝
2	堀田 利則	柏倉 秀和 石井 章夫	河合 武夫	坂谷 昭一 屋 明貞 小林 資明	渡部 公	小路 忠臣 町田 良治 秋田 清 鈴木 迪夫	花形 勝
3	堀田 利則	柏倉 秀和 石井 章夫 河合 武夫	坂谷 昭一	屋 明貞 小林 資明 大山 貞義	渡部 公	小路 忠臣 秋田 清 鈴木 迪夫 高埜 良子	花形 勝
4	堀田 利則	柏倉 秀和 石井 章夫 河合 武夫	坂谷 昭一	屋 明貞 小林 資明 大山 貞義	小路 忠臣	秋田 清 鈴木 迪夫 高埜 良子 安藤 徹 大橋 信明	花形 勝
5	堀田 利則	柏倉 秀和 石井 章夫 河合 武夫	坂谷 昭一	屋 明貞 小林 資明 大山 貞義	小路 忠臣	秋田 清 渡部 公 高埜 良子 安藤 徹 大橋 信明	町田 叡
6	堀田 利則	柏倉 秀和 石井 章夫 河合 武夫	坂谷 昭一	屋 明貞 小林 資明 鈴木 秀明	小路 忠臣	渡部 公 高埜 良子 安藤 徹 大橋 信明 北村 妙子	町田 叡



年度	地区協議会長	副協議会長	地区委員長	副地区委員長	地区コミッショナー	副地区コミッショナー	事務長
7	堀田 利則	柏倉 秀和 石井 章夫 河合 武夫	屋 明貞	小林 資明 鈴木 秀明 花形 勝	渡部 公	小路 忠臣 高埜 良子 田島 宜彦 大橋 信明 北村 妙子	安藤 徹
8	堀田 利則	柏倉 秀和 石井 章夫 河合 武夫 小林 資明	屋 明貞	鈴木 秀明 花形 勝 谷本 通安	渡部 公	小路 忠臣 田島 宜彦 大橋 信明 北村 妙子 雨池ヒサ子	安藤 徹



### (3) ガールスカウトのあゆみ

#### ア. 発足及び経過

1909年、ベーデンパウエル卿の手によりイギリスで始められたガールスカウト運動が日本では1920年に東京で第1組が日本女子補導団として設立され、しだいに各地に広がった。

第2次世界大戦中は一時中止された活動も、1949年に日本連盟が結成され以来めざましい発展をつづけている。

川崎では昭和26年に運動が芽ばえはじめたが長くは続かず10年後の36年に14団と17団が発団、37年にガールスカウト川崎市連絡会が結成され川崎市青少年育成連盟に加盟する。昭和39年14団の年長団として上級スカウト3団が発団、地元育ち第1号リーダーが誕生スカウトの指導に当る。

惜しくもこの年17団が休団となるが40年に溝ノ口地区を中心に末長に新団が誕生17団の団名をつぎ、のちに活動地区を平間に移す。

昭和46年2月溝ノ口地区にブラウニー31団、ガールスカウト31団が同時に発団する。川崎市にブラウニー団が初めて誕生した。

昭和48年に日本連盟からプログラムの改訂が出され団名の変更も行なわれた。ブラウニー、ジュニア、シニア、レンジャーのファミリーを強調し、4部門合わせてガールスカウトと云う、対象は小学校1年から引き下げ、教育する年代を高校生相当のところまでとした。

この頃溝ノ口周辺と多摩地区からの入団希望者が多くなり、31団を分団し多摩区西生田に32団が49年3月発団した。

昭和50年4月中原区に40団が発団し、小杉、元住吉を中心に活動を開始、スカウト数も年々増加し、プログラムの改訂と共に当連絡会の行事もスカウトを中心に活発になり年長部門を対象とした日赤少年救急法、家庭看護法の講習会等が開催され、バッチ、エイドの修得に取り組む。

昭和52年1月連絡会結成15周年記念式典を高津市民館において挙行し、多くの来賓、友団の励げましを受けると共にガールスカウト運動の輪を一層ひろげなければと祈念する。

多摩区でのスカウト数が伸び始め32団より分団し48団が宿河原へ、65団が柿生に発団活動を開始する。又、17団も人数の増員のため分団70団が幸区に誕生、その後、川崎区に84団中原区に85団と発団したが両団とも54年から58年までの活動で休団となった。

連絡会の行事もスカウト達の活動だけでなく広く一般市民へ働きかけ、その一つに親子キャンプがあり49年から6年間つづけ、その後は川崎市立ろう学校の生徒と交流をもち友情を深めた。交流会ではキャンプ、野外料理、ハイキング、舎営、クリスマス会とスカウトと生徒の実行委員が一年間の計画をたて自分達の手で運営し、全ての面で心のつながりがもたれ収穫は多かった。

昭和61年、この年は連絡会結成25周年になり、その記念すべき年のために5年前よりスカウトの海外研修旅行が計画され、その資金づくりの一環としてバザーを実施すると共にこの研修旅行に参加するスカウトの事前研修を60年より始めた。研修先として川崎市姉妹都市ポルチモア市（アメリカ）、ガールスカウトのワールドセンター・アワー・カバニア（メキシコ）に行

った。

連絡会では初めての試みであったが伊藤三郎川崎市長を始め市当局の方々、ご協力くださった多くの皆様のお蔭で実り多い研修が出来、国際視野が広まりこれからの活動が期待できることと思われる。

ガールスカウトの活動のポイントは、「人とのまじわり」「自然とともに」「自己開発」この3つを柱にいろいろのプログラムが組まれ活動している。

核家族が増え、異年齢の人々との付き合いが減り、人づきあいを上手に出来ない子どもたち、自然に接する機会の少ない子どもたちが、キャンプをはじめ地域の行事に積極的に参加し、自分たちの能力を十分に発揮していく場なのである。

学校教育が月2回、週5日制を取り入れ、地域社会の教育が重要視されるようになり、ガールスカウト活動の役割が高まってきている。

昭和61年にアメリカ・メキシコ海外派遣に続き、昭和62年にはイギリス・イタリア・スイス・ユーゴスラビア〔リエカ市〕を訪問した。

世界中のガールスカウトが集い、国際親善をはかると共に友情を深めるよう建設されたワールドセンターが世界に4つあり、〔イギリス・メキシコ・スイス・インド〕中でも、スイスのアワシャレーを訪問したときの感激は生涯忘れられない思い出となっている。

昭和62年からは歳末助け合い募金を始め、川崎にある8つの団が最寄りの駅前で街行く人に募金を呼びかけ、集めた募金をスカウト達が川崎市長に届けている。



シニアの集いもこの年から始まり、第一回目は海洋少年団の協力で手旗の講習を黒川青少年野外活動センターで行った。

毎年行われている中高生部会は、他団体との交流の場として、シニア・レンジャーの貴重な体験になっている。

昭和63年に、川崎市の姉妹都市であるリエカ市へ招待キャンプに7名が参加し、より深い友情を高めて帰って来た。

この年には、宮崎台にある青少年の家が改築されオープンエンジョイキャンプを行った。設備が整い、新しく綺麗な施設をスカウト活動の場のひとつとして大いに利用している。

平成5年にはガールスカウト神奈川県支部主催の地区別バレーボール大会が行われ、みごと応援合戦でも優勝し、川崎市連絡会の団結の強さを感じる出来事であった。

翌年、ガールスカウト日本連盟が70周年を迎え、日本全体で1,620ヶ団と91,290名の会員数になった。

時を同じくして、川崎市連絡会も30周年を迎え、麻生市民館で式典を盛大に行い、ハヶ岳少年自然の家で合同キャンプ、オーストラリア・ウーロンゴンに海外派遣を行った。

平成4年には川崎市の姉妹都市、ボルチモアからガールスカウトが来日、ホームステイや交流キャンプを行い、日米親善に貢献した。翌年にはボルチモアへ平成8年には35周年を記念し

てドイツ・リュベック・オーストリア・ザルツブルグへ海外派遣を行った。

ここ10年間は海外派遣を密に行い、国際感覚を身につける良い機会だったと思われる。

子どもたちの幸せを願って行っている活動であるが、それを支えている大人のボランティア〔リーダー・アダルトスカウト・保護者団員〕の力なしでは、運営していくことは難しく、日頃から研修会や地区会で親睦を計り、相互のきずなを深めている。

ガールスカウト川崎市連絡会が今日この様に発展があり、また地域にねぎした活動をするためにも、川崎市当局及び、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、ソロブチミスト川崎支部はもとより、育成連盟、地域の人たちのあたたかいご理解、ご指導の賜ものと感謝申し上げますと共に21世紀にむけて、益々必要とされるこの活動を、スカウト一人ひとりが、さらに発展するよう力強くチャレンジして行きたいと願うものである。

現在、川崎市連絡会の総数は8ヶ団・会員数約500名である。

#### イ. 年 表

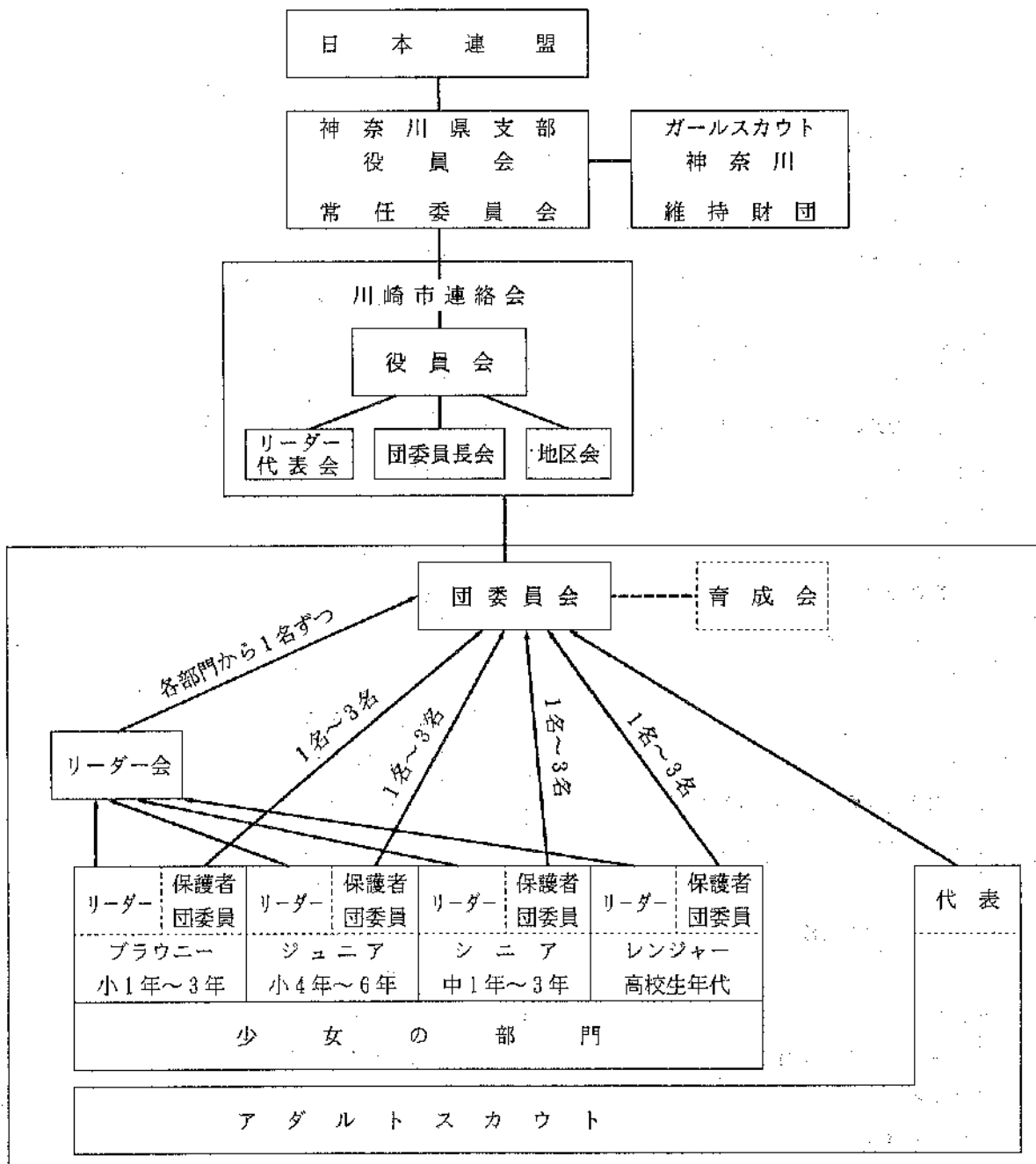
年度	記 事	年度	記 事
昭和26	ガールスカウト活動始まる。	昭和49	第2回新年ラリー 総会
28	休団となる。		第1回親子キャンプ（市民対象） 少年救急法講習会
36	神奈川県第14団、17団発団	50	第3回新年ラリー USAスカウトとの交流 総会 少年救急法講習会
37	ガールスカウト川崎連絡会結成 結成記念大会、キャンプ実施		第2回親子キャンプ 連絡会キャンプ（戸隠） バザー
44	連絡会結成7周年記念式典	51	第4回新年ラリー 総会 親子キャンプ 家庭看護法講習会 連絡会結成15周年記念式典
46	リーダー研修会 クリスマスの集い		
47	テーブルマナー 連絡会キャンプ 総会		
48	第1回新年ラリー 総会		

年度	記 事	年度	記 事
昭和52	第5回新年ラリー 総会 親子キャンプ 連絡会15周年記念キャンプ(戸隠)	昭和57	シンキングデーラリー バザー
53	第6回新年ラリー 総会 親子キャンプ 連絡会キャンプ 少年救急法講習会 シンキングデー バザー	58	総会 フレンズファミリー 組長宿泊訓練 家庭看護法講習会 年少部門ラリー バザー
54	総会 少年救急法講習会 家庭看護法講習会 シンキングデー 親子キャンプ バザー	59	総会 フレンズファミリー 年少部門ラリー 少年救急法講習会 家庭看護法講習会 バザー
55	総会 日本連盟結成60周年記念、ブラウニーキャン プ(ハッ岳) 仲よしキャンプ(聾学校生徒と交流) 少年救急法講習会 テーブルマナー	60	総会 フレンズファミリー 少年救急法講習会 組長宿泊訓練 神奈川県支部結成30周年記念ラリー バザー
56	総会 連絡会キャンプ(ジュニア) フレンズキャンプ(聾学校生徒と交流) 家庭看護法講習会 連絡会結成20周年記念式典	61	総会 連絡会結成25周年記念アメリカ、メキシコ研 修旅行 少年救急法講習会 年少部門ラリー 組長宿泊訓練 バザー
57	総会 フレンズファミリー(聾学校生徒と交流) 少年救急法講習会	62	総会 スイス・リエカ海外研修旅行 少年少女救急法 パトロールリーダー訓練

年度	記 事	年度	記 事
昭和62	歳末助け合い募金 シンキングデー シニアの集い レンジャー集会 バザー	平成3	つくしんこの集い シニア・レンジャーの集い 救急法 バザー
63	総会 海外派遣リエカ市招待キャンプ 少年少女救急法 ウーロンゴン市交流会 年少ラリー パトロールリーダー訓練 歳末助け合い募金 合同シンキングデー シニアの集い	4	総会 ガールスカウトふれあいフェスティバル ボルチモアガールスカウト受入れ 年少ラリー つくしんこの集い シニア・レンジャーの集い テーブルマナー シンキングデー
平成	総会	5	総会 ボルチモア研修 年少ラリー つくしんこの集い シニア・レンジャーの集い 救急法 バザー
元年	シニアの集い 支部主催地区対抗バレーボール大会 年少ラリー つくしんこのつどい 歳末助け合い募金 家庭看護法 レンジャーの集い バザー	6	総会 年少ラリー つくしんこの集い レンジャーの集い シニアの集い 家庭看護法 クリスマス会 バザー
2	総会 日本連盟70周年記念支部行事 連絡会30周年記念キャンプ " " オーストラリア ウーロンゴン研修	7	総会 年少ラリー つくしんこの集い シニアの集い レンジャーの集い
3	総会 ガールスカウトふれあいフェスティバル 年少ラリー 家庭看護法		

年度	記 事	年度	記 事
平成7	臨時総会 リーダー研修会	平成8	総会 連絡会35周年記念ドイツ・オーストリア海外研修 年少ラリー 平和キャンペーン

ウ. 組織表

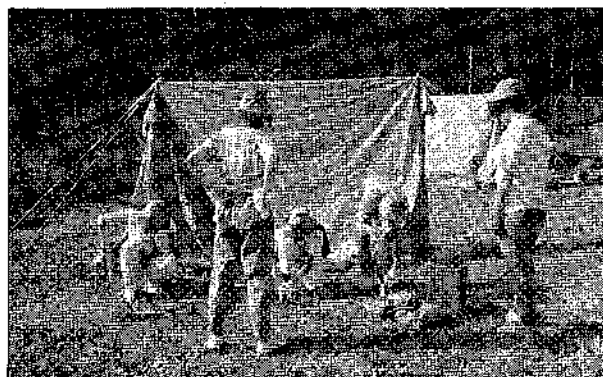


エ. 歴代役員一覧表

年度	会 長	副 会 長	書 記	会 計	事 務 局	監 査
36	平野シズ	小谷弘子	溪 浜 子 倉 田 艶 子	山 口 敏 子 末 村 美 津 子		
37	平野シズ	小谷弘子	溪 浜 子 倉 田 艶 子	山 口 敏 子 末 村 美 津 子		
38	平野シズ	小谷弘子	山 口 敏 子 白 田 キ ヨ	溪 浜 子		
39	平野シズ	山口敏子	白 田 キ ヨ	溪 浜 子		
40	山口敏子	溪 浜 子	白 田 キ ヨ	若 生 美 也 子		
41	山口敏子	溪 浜 子	白 田 キ ヨ	若 生 美 也 子		
42	溪 浜 子	山口敏子	白 田 キ ヨ	若 生 美 也 子	若 生 美 也 子	
43	山口敏子	溪 浜 子	白 田 キ ヨ	若 生 美 也 子	若 生 美 也 子	
44	溪 浜 子	山口敏子	白 田 キ ヨ	若 生 美 也 子	若 生 美 也 子	
45	山口敏子	溪 浜 子	白 田 キ ヨ	若 生 美 也 子	若 生 美 也 子	
46	山口敏子	溪 浜 子	白 田 キ ヨ	若 生 美 也 子	若 生 美 也 子	
47	山口敏子	溪 浜 子	白 田 キ ヨ	若 生 美 也 子	若 生 美 也 子	
48	山口敏子	溪 浜 子 芦 垣 秀 代	今 井 米 子	若 生 美 也 子	若 生 美 也 子	
49	芦垣秀代	今井米子	馬 場 典 子	小 林 規 子	西 葉 子	
50	芦垣秀代	今井米子	小 林 規 子	馬 場 典 子	西 葉 子	
51	芦垣秀代	岡 崎 ま さ 子 東 生 す み 江	田 子 ふ み よ	屋 セツ子	西 葉 子	
52	芦垣秀代	岡 崎 ま さ 子 東 生 す み 江	田 子 ふ み よ	屋 セツ子	西 葉 子	
53	芦垣秀代	東 生 す み 江 田 子 ふ み よ	池 田 朋 枝	山 下 智 弥 子	西 葉 子	
54	芦垣秀代	東 生 す み 江 田 子 ふ み よ	佐 藤 英 子	山 下 智 弥 子	西 葉 子	
55	芦垣秀代	東 生 す み 江 田 子 ふ み よ	佐 藤 英 子	山 下 智 弥 子	西 葉 子	
56	芦垣秀代	東 生 す み 江 田 子 ふ み よ	佐 藤 英 子	山 下 智 弥 子	西 畑 千 春	
57	芦垣秀代	東 生 す み 江 田 子 ふ み よ	佐 藤 英 子	根 本 あ け み	西 畑 千 春	



年度	会 長	副 会 長	書 記	会 計	事 務 局	監 査
58	芦垣秀代	東生すみ江 田子ふみよ	佐藤英子	根本あけみ	西葉子 畑千春	
59	芦垣秀代	東生すみ江 小林美年子	長尾みはる	中村敏江	西葉子 畑千春	
60	芦垣秀代	東生すみ江 小林美年子	長尾みはる	中村敏江	西葉子 佐々木れい子	
61	芦垣秀代	東生すみ江 小林美年子	長尾みはる	中村敏江	西葉子 佐々木れい子	
62	芦垣秀代	東生すみ江 小林美年子	内平文枝	中村敏江	西葉子 佐々木れい子	落合園子
63	芦垣秀代	東生すみ江 小林美年子	落合園子	中村敏江	西葉子 佐々木れい子	竹中節子
平成 元	芦垣秀代	小林美年子 落合園子	竹中節子	川浦恭子 出口安代	西葉子 富田廣子	黒澤寿子
2	芦垣秀代	小林美年子 落合園子	竹中節子	川浦恭子 出口安代	西葉子 富田廣子	黒澤寿子
3	芦垣秀代	小林美年子 西葉子	宮田妙子	川浦恭子 出口安代	清水紀子 栗栖博子	黒澤寿子
4	芦垣秀代	小林美年子 西葉子	宮田妙子	川浦恭子 出口安代	清水紀子 栗栖博子	黒澤寿子
5	芦垣秀代	落合園子 佐々木れい子	黒澤寿子	北村妙子 城田美津子	清水紀子 内藤隆子	山本瑩子
6	芦垣秀代	落合園子 佐々木れい子	黒澤寿子	北村妙子 城田美津子	清水紀子 内藤隆子	山本瑩子
7	芦垣秀代	川浦恭子 大屋ヒサ子	小林洋美	奈良初江 坂井和子	山本瑩子 内藤隆子	鈴木由紀
8	芦垣秀代	川浦恭子 大屋ヒサ子	小林洋美	奈良初江 坂井和子	山本瑩子 内藤隆子	鈴木由紀



#### (4) 海洋少年団のあゆみ

##### ア. 発足及び経過

四方を海で囲まれたわが国は、海を愛し海とともに生きてきた。限りなく広がる海原は、貴重な資源の宝庫であり世界各国へ通じている。

海洋少年団は、この広い海を主な訓練の場として、手旗信号、ロープワークやカッターなど基礎的訓練をはじめヨットや巡視船に乗り航海訓練を行っている。

昭和38年当時は、横浜海洋少年団の中に川崎隊が存在し、横浜団員とともに訓練を受けていた。数年後、団員数が増えて横浜団の訓練においても、なにかと不便な点が多くなり、また団員の中にも川崎団として独立したいと希望があった。

以上のような経過を理解し、昭和40年に川崎海友会会長の故太田馨氏の尽力によって横浜海洋少年団から独立し、川崎海洋少年団を結成した。昭和40年9月19日に川崎市立宮前小学校の講堂において、県内の海洋少年団、市内のボーイスカウトやガールスカウトの代表に見守られながら発団式を行った。翌昭和41年4月には、川崎市青少年育成連盟に加入の承認を受けることができた。



昭和42年、海上保安庁より待望のカッター2隻とライフジャケット20着の譲渡を受け、昭和48、59年には、日本海洋少年団連盟よりカッターの譲渡を受け、貴重な財産となった。以後組織の確立と強化の推進に努め活動の内容も広がってきた。

日ごろの活動の成果を試す場として、昭和49年の日本海洋少年団全国大会に初参加した。昭和52、56、57、59年の全国大会では、手旗送受信競技において満点賞を取ることができ、平成3年の全国大会では、水泳競技の高等級の部自由形において第3位に入賞するなど活躍できた。

県内の海洋少年団、市内の友好団及び教育委員会の方々のご協力をいただき、平成7年11月26日に発団30周年記念式典を迎えることができた。

今後の活動として、全国・地域大会及びキャンプを中心とする活動に加え、近年の多様化したマリンスポーツをどのように取り入れていくか検討し活動範囲を広げていきたいと考えている。

##### イ. 年 表

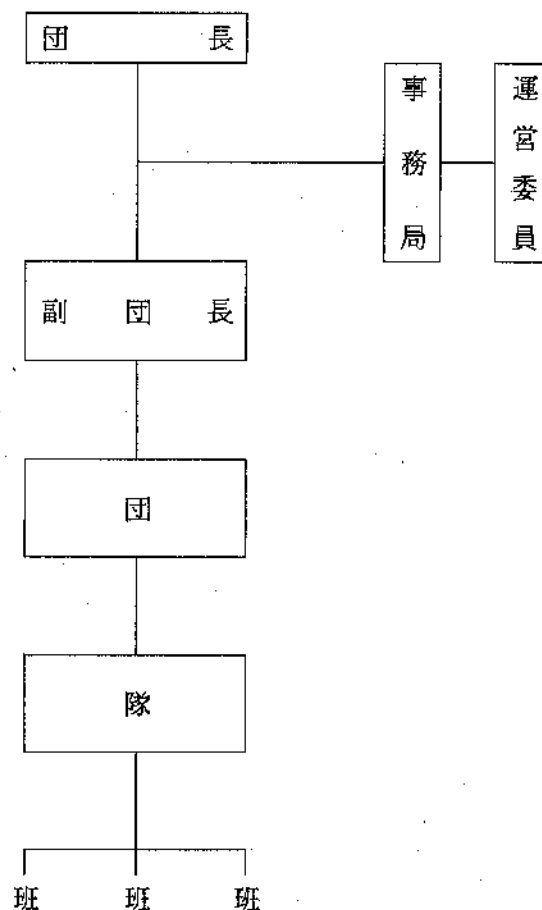
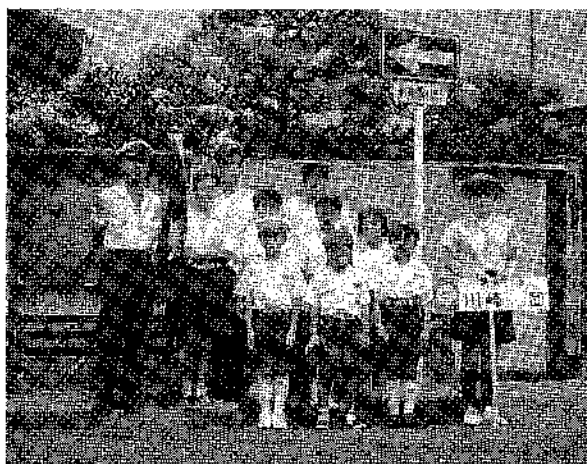
年度	行 事 活 動
昭和40	横浜海洋少年団川崎隊より独立し、9月19日川崎市立宮前小学校講堂にて発団式を行い、川崎海洋少年団として独立する。
41	川崎市青少年育成連盟に加盟する。

年度	行 事 活 動
昭和41	川崎海洋少年団の主催で巡視船「むろと」にて航海訓練を行う。
43	指導者研修会で外国青少年と交流をする。
44	三浦半島の夏季合宿にて水泳訓練を実施する。
45	「千鳥丸」「塩浜丸」の出動訓練に参加する。
	夏季キャンプを日原キャンプ場にて実施する。
46	夏季キャンプを2泊3日で氷川キャンプ場にて実施する。
	伊豆大島初日の出のつどい1泊2日で実施する。
47	春季キャンプを川井キャンプ場にて実施する。
	夏季団員研修会、千葉県富津キャンプ場にて2泊3日で実施する。
48	春季合宿を三浦臨海学園にて実施する。
	伊豆七島の三宅島にて夏季キャンプを5泊6日で実施する。
	海洋少年団関東連盟主催のジュニアリーダー救急法研修会に参加する。
49	カッター訓練を三浦臨海学園にて2泊3日で実施する。
	第23回日本海洋少年団全国大会（広島大会）に初参加する。
	横浜、大和、川崎海洋少年団の合同で巡視船「みうら」にて航海訓練を実施する。
50	川崎海洋少年団音楽隊を結成する。
	春季合宿を三浦臨海学園にて2泊3日で実施する。
	第24回日本海洋少年団全国大会（東京大会）に参加する。
	伊豆七島の神津島にて夏季キャンプを4泊5日で実施する。
	第1回海洋少年団関東大会（横浜大会）に参加し、カッター競技において優秀賞を受賞する。
	川崎海洋少年団の主催による神奈川県連盟班長研修会を三浦臨海学園にて実施する。
	発団10周年記念式典を11月9日に川崎市立宮前小学校講堂にて開催する。
51	春季合宿を川崎市青少年の家にて実施する。
	5月5日、第18回川崎市子ども遊園会に初参加する。音楽隊はステージ、パレードに大活躍する。以後毎年参加し現在にいたる。
	第2回海洋少年団関東大会（銚子大会）に参加し、手旗競技において第3位入賞する。
52	第26回日本海洋少年団全国大会（四日市大会）に参加し、初参加から4年目で念願の手旗送受信競技において満点賞をとる。
	川崎海洋少年団主催のジュニアリーダー研修会を実施する。
53	第27回日本海洋少年団全国大会（豊橋大会）に参加する。カッターレースの女子部に初参加する。
	夏季キャンプを氷川キャンプ場にて2泊3日で実施する。
54	川崎市青少年育成連盟主催のスキー教室に参加する。
	夏季合宿を三浦臨海学園にて実施する。

年度	行 事 活 動
昭和54	スキー合宿を3泊4日で初めて行う。場所は、志賀高原の熊ノ湯温泉にて実施し、以後昭和58年まで5年間継続する。
55	川崎市青少年育成連盟主催の第1回八ヶ岳徒歩ラリーに参加する。 第29回日本海洋少年団全国大会（東京大会）に参加する。
56	川崎市青少年育成連盟主催の第2回八ヶ岳徒歩ラリーに参加する。 第30回日本海洋少年団全国大会（北九州大会）に参加し、手旗送受信競技において満点賞をとる。昭和52年以来の2度目の受賞となる。
57	川崎市青少年育成連盟主催の八ヶ岳オリエンテーリングに参加する。 第7回海洋少年団関東大会（新島大会）に参加する。 第31回日本海洋少年団全国大会（札幌大会）に参加し、手旗送受信競技において満点賞をとる。 川崎市民祭において、「ロッセオリオンズ」ファン感謝のつどいに音楽隊として参加する。以後ロッセが千葉県に移転するまで参加する。 幸区民祭、中原区民祭に参加する。
58	川崎市青少年育成連盟主催の八ヶ岳のつどいに参加する。 初島（静岡県）にて夏季キャンプを2泊3日で実施する。 第32回日本海洋少年団全国大会（福山大会）に参加する。 幸区民祭に参加する。 幸区青少年フェスティバルに参加する。クラフトを通じてほかの団体と交流をし、以後毎年参加する。
59	川崎市青少年育成連盟主催の中・高校生ハイキングのつどいに参加する。 第33回日本海洋少年団全国大会（沼津大会）に参加し、手旗送受信競技において満点賞をとる。 夏季キャンプを静岡県の宇久須キャンプ場にて3泊4日で実施する。 カッター「ふじ」の進水式を行う。 幸区民祭に参加する。
60	川崎市青少年育成連盟主催のジュニアリーダー研修会に参加する。 国際青年（IYY）川崎推進協議会の一員として参加し、IYYユースキャンプ、IYYフェスティバルに活躍する。 夏季キャンプを伊豆七島最大の八丈島の底土キャンプ場にて4泊5日で行う。青い海に感動する。以後3年間継続で実施する。
61	発団20周年記念式典を会館とどろきにて開催する。
平成元	第38回日本海洋少年団全国大会（児島大会）に参加し、水泳競技において初等級の部自由形第6位、中等級の部自由形第4位にそれぞれ入賞する。 発団以来初めての海外交流をする。姉妹都市ウーロンゴン市（オーストラリア）へ行

年度	行 事 活 動
平成元	き、言葉の壁を越えて友情を深める。
3	<p>第40回日本海洋少年団全国大会（茅ヶ崎大会）に参加し、水泳競技の高等級の部自由形において第3位入賞する。</p> <p>川崎市ハヶ岳青少年自然の家を宿舎にスキー合宿を行う。スキー場は、富士見パノラマスキー場で実施する。以後毎年実施する。</p>
4	<p>姉妹都市ボルチモア市（アメリカ）よりシースカウト6名来川する。初めての受入れであたふたしながらも、ホームステイ中心に2週間滞在し、ヨットをはじめとし富士山登山など交流を深めた。</p> <p>秋季キャンプを鳩の巣キャンプ場にて2泊3日実施する。</p> <p>海洋少年団神奈川県連盟主催で県営柳島青少年キャンプ場にてデイキャンプを参加する。</p> <p>川崎市青少年の家にてもちつきを開催する。以後毎年実施する。</p>
5	<p>千葉県木更津市にて潮干狩りを実施する。以後毎年実施する。</p> <p>横浜港カッターレースに参加する。</p> <p>姉妹都市ボルチモア市（アメリカ）に行く。6名で参加し、2週間のホームステイで滞在する。アメリカ生活を肌で感じる。</p> <p>千葉県にていちご狩りを実施する。以後毎年実施する。</p>
6	<p>第2回関東・東京地区連盟大会（清水大会）に参加する。</p> <p>夏季キャンプを伊豆大島の海のふるさと村にて4泊5日で実施する。</p> <p>横須賀市の防衛大学内で行われた海洋少年団神奈川県連盟主催によるヨット研修会に参加する。</p>
7	<p>横須賀市の防衛大学内で行われた海洋少年団神奈川県連盟主催による班長研修会に参加する。</p> <p>横浜港カッターレースに参加する。</p> <p>夏季キャンプを8年ぶりに八丈島の底土キャンプ場にて4泊5日で実施する。久しぶりに八丈島に再び感動する。</p> <p>発団30周年記念式典を11月26日にエポック中原にて開催する。</p>
8	<p>第1回青少年フェスティバルに参加する。</p> <p>夏季キャンプを氷川キャンプ場にて2泊3日で実施する。日原鍾乳洞見学などする。</p> <p>第3回関東・東京地区連盟大会（横須賀大会）に参加する。</p>

ウ. 組織表



エ. 歴代役員一覧

年度	名誉団長	団 長	副 団 長	事務局	会 計	監 査	評 議 員
S 40		太田 馨	山岸 梅茂	丸子 寛美			
41		太田 馨	山岸 梅茂	丸子 寛美			
42		太田 馨	山岸 梅茂	丸子 寛美			
43		太田 馨	上田 長孝	福田 武雄			
44		太田 馨	上田 長孝	福田 武雄			
45		太田 馨	上田 長孝	福田 武雄			
46	太田 馨	上田 長孝	福田 武雄	国雲 孝始			
47	太田 馨	上田 長孝	福田 武雄 間中	国雲 孝始			
48	太田 馨	福田 武雄	国雲 孝始	国雲 孝始			
49	太田 馨	福田 武雄	国雲 孝始	国雲 孝始			
50	太田 馨	福田 武雄	国雲 孝始	国雲 孝始			
51	太田 馨	福田 武雄	国雲 孝始	田中 康晴	大場 和雄		
52	太田 馨	福田 武雄	国雲 孝始	田中 康晴	大場 和雄		

年度	名誉団長	団 長	副 団 長	事 務 局	会 計	監 査	評 議 員
S53	太田 馨	福田 武雄	国雲 孝始	田中 康晴	大場 和雄		
54	太田 馨	福田 武雄	国雲 孝始	国雲 孝始	中園 真美		
55	太田 馨	福田 武雄	国雲 孝始	国雲 孝始	中園 真美		
56		福田 武雄	国雲 孝始	国雲 孝始	中園 真美		
57		福田 武雄	国雲 孝始	国雲 孝始	中園 真美		
58		福田 武雄	国雲 孝始	国雲 孝始	中園 真美	大島 武巳 菊地美智子	
59		福田 武雄	国雲 孝始	山岡 修	菊地美智子	大島 武巳 井本 勝己	
60		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	山岡 修	菊地美智子	大島 武巳 井本 勝己	
61		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	山岡 修	菊地美智子	大島 武巳 井本 勝己	
62		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	山岡 修	菊地美智子	大島 武巳 井本 勝己	菊地 陽子 大島 敦子
63		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	井本 勝己	菊地美智子	大島 武巳 山岡 修	菊地 陽子 大島 敦子
H元		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	井本 勝己	菊地美智子	大島 武巳 石渡 学	菊地 陽子 大島 敦子
2		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	大島 武巳	菊地美智子	大島 武巳 木伏 郁雄	菊地 陽子 大島 敦子
3		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	大島 武巳	菊地美智子	大島 武巳 木伏 郁雄	菊地 陽子 大島 敦子
4		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	山岡 修	菊地美智子	大島 武巳 木伏 郁雄	菊地 陽子 大島 敦子
5		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	山岡 修	菊地美智子	大島 武巳 木伏 郁雄	菊地 陽子 大島 敦子
6		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	山岡 修	菊地美智子	大島 武巳 木伏 郁雄	菊地 陽子 大島 敦子
7		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	山岡 修	後藤美智子	大島 武巳 木伏 郁雄	菊地 陽子 大島 敦子
8		福田 武雄	井本 勝己 山岡 修	山岡 修	後藤美智子	大島 武巳 木伏 郁雄	菊地 陽子 木伏 和子

## 6. 未来のわたし

### 21世紀の主人公に夢を語ってもらいました

〈川崎市子ども会連盟〉

川崎区 秋山 聡

「未来のわたし」と云っても、数十年後のわたしもあり、ほんの2、3分後のわたしも「未来のわたし」だと思う。

そういう中で、「未来のわたし」について考える事は非常に難しい事ですけど今、現在のわたしをよく見つめた上で、「未来のわたし」について考えた結果です。

今、わたしは子ども会のジュニアリーダーの活動をしています。始めてからもう4年がたつわけですが、これから先もそういう活動をきつと続けていくと思うし、ずっと続けていきたいと思うほど今の活動に私は誇りをもって取り組んでいるからです。

そして、いつの日には「未来の子ども会」すなわち二十一世紀の子ども会を素晴らしく発展していくための良き指導者になりたいと思っています。

幸区 大嶋比呂子

わたしのゆめは、マンガかになることです。理由は三つあります。一つは話しがうまくてよく友だちに「あの人の主人公の話しをして」と言われたら、「昔あるところに……」と始まって話します。またいとこの子たちにもよく「ももたろうのかいぞう話して」と言われたり、つぎは「ももたろう百年後にして」、とよく言われます。だからマンガかになりたいんです。

もう一つは、絵は少しうまいと言われます。よく自由ちように絵をかいて遊んでいると「少しへたっぴーだけどうまい」とか、「へた」と言われるけれど「大人になったらうまくなる」

と口ごたえをします。もう一つは四コママンガのマンガかになろうと考えてるからです。友だちによく「四コママンガかにむいているよ」と言われます。でも人になんと言われても、自分の道を進みます。

中原区 加藤菜奈子

私の将来の夢は、エッセイストになることです。なぜなら、私は本を読むのが好きで、とくにエッセイが好きだからです。

エッセイは、文章の表現がとてもおもしろく日常のできごとが自然のまま書かれています。だから何時間でも読んでいられるような気がします。

私は身近な周りのできごとや家族のこと、ペットのこと、友達のことなどを本にして書いてみたいと思います。

まず一作目は、家族のことをおもしろおかしく書いてみたいと思います。たぶんうちの家族はみんなユニークで、笑いと話題がたえないので、そのことを本にするとベストセラーになると思います。

今から色々な出来事を頭と心に残しておいて、未来の作品の題材にしたいです。

高津区 豊嶋 宏美

未来ってなんだろう。今、私は中学生で毎日が忙しい。夏休みはほとんど部活だった。これから先のことをじっくり考えてる余裕なんてまるでない。でも一つだけいいなと思っていることがある。それは私が小学生の頃、八ヶ岳キャンプに参加して思ったことだ。そこでは中高生のジュニアリーダーがいろいろなゲームをして



遊んでくれた。手あそびや全身を動かしたりして、次から次へと汗だくでへとへとになるまで思いきり遊んだ。ものすごくつかれたけれどもとても楽しかった。私も高校生になったら、ジュニアリーダーになりたいと思った。そして大人になってもずっと仕事として続けられたらいいなと思う。小学校とかで勉強を教えるのではなく、遊びのプロになって自分も遊びながら教えることができれば……。今の子ども達はグループで遊びができないといわれている。大人になっても子ども達と遊ぶというのはピッタリだと思うんだけど。

多摩区 小泉 奈穂

どうなっていくのかわからない私、もしかしたら今とはまったく違う自分になっているかもしれない。もしかしたら、どこか見知らぬ国にいるのかもしれない。でも今の私の夢は、甲子園に選手として出場することです。けして野球が上手なわけではないけれども野球の経験がないわけでもない。小学校4年生から6年生まで少年野球のチームで男の子にまじって練習をしてきた。けれども一軍の選手としてでたのは人数がたりなかった時で、しかも、もう6年生になっていたころでした。大学野球は女子はよくなくても、高校野球は女子がよくならないのがとても残念です。高校に入ったら野球部に入りたいと思っています。中学では野球部がなかったから入れなくて残念だと思いました。けれども、もし野球部があっても男子のみだったら入れないからすごく残念です。まわりから見ればちょっと不思議な夢だけど、みんなが一つ一つ大切にもってる夢なので、せいっぱいがんばります。

宮前区 江木 理未

私は、犬の訓練士になりたいです。いま自分の家で柴犬を飼っています。かわいくて、かわ

いくてしかたがないのです。名前はラムといいます。私がよく世話をしてあげるので、私についています。学校から帰るとちゃんとおでむかえをしてくれたり、散歩の時間になると私のすがたを目でおって、しっぽをおもいきりふっています。

私はどんな犬でも大好き！だからいつも犬といっしょに過ごしたいと思っています。犬の訓練士に特にあこがれているわけではないけれど、犬が大好きというだけで、今は、犬の訓練士になりたい気持ちでいっぱいです。

未来の私、本当になれるといいなと思います。

麻生区 小島 恵

おとなの私はきっと保育園の先生になってるでしょう。だって私のなりたいものは、保育園の先生だからです。

私は、小さい子が大好きです。みんなとってもかわいいし、とってもすなおだからです。

あとお嫁さんにもなりたいです。(でもこれは必ず) ぜったい仕事をやりながらおくさんをやってみたい。たいへんだと思うけど、私はぜったいに必ずやってみせます。こどもは必ずうみます。4人で女の子2人、男の子2人ぐらいほしいなあと思っています。

大人になるにはまだまだだけど、ぜったいに夢をかなえたいです。



〈ボーイスカウト川崎地区協議会〉

川崎55団 ビーバー隊 こじまさとし

ぼくは、ビーバーたいに入って三年になります。毎しゅうのしゅうかいで、ゲームをしたり、工作をしたり、うたをうたったりしています。

それから月に一どはハイキングに行ったり、しせつけんがくをしたり、サイクリングをしたりして、みんなでたのしんでいます。それから夏のキャンプは、とてもたのしいです。

もうすぐカブたいに上進します。カブになったらロープむすびや、手ばたや、うたをおぼえたり、ほうしかつどうをして人のためになることをしていきたいです。

そして大きくなったら、ペットやさんになりたいです。ぼくは生きものが好きだからです。一番好きなのはハムスターです。それと子ねこも大好きです。たくさんのかわいい生きものたちとくらせるので、ペットやさんはたのしそうです。ちゃんとせわもしてあげたいとおもいます。

ぼくはボーイスカウトにはいってとてもよかったです。これからもがんばります。

第48団 カブ隊 窪田 貴一

お父さんのあとつぎになりたい。お父さんのようにおいしいラーメンなどを作りたい。お父さんのように物をうまく作りたい。お父さんのようになりたい。

第48団 カブ隊 宮内 健吾

大きくなったら理科名人になって、じっけんをうまくやれるようになって、理科の先生になりたいです。そして、子どもたちの頭が良くなるようにしたいです。また、全員が理科のせいせきを100点とれるようにしたいです。じっけんもじょうずにできるようにしたいです。

第48団 カブ隊 篠崎 郁実

大きくなったら、ふつうのたび人になりたい。アメリカにいったり、フランスにもいきたいです。いろいろのところにいきたいです。がんばります。

第48団 カブ隊 窪田 敬介

大きくなったら、セールスマンになりたいかな。ならないこともある。ならなかったらなにかになる。どこかにつとめないとかせげないから。金がないといきていけないから、はたらく。

第3団 ボーイ隊 後藤 健太

夢といわれてもあまりピンとこない。だけど考えて見れば、けっこういっぱいある。その中から一つを選んでみた。

ぼくは医者になりたい。医者になれば今、治せない病気と戦っている人たちの病気を治せる薬が自分で作り出せるかもしれないからだ。自分の患者の病気を治せた時のよろこびは、医者になって初めて分かるような気がする。医者にしか味わえないものがあるような、そんな気がした。ぼくは医者になりたい。

第38団 シニア隊 本田 充明

高校受験の時、将来自分はなにをやりたいのかを考えた。だが人の気持ちというのはちょっとしたきっかけで変わるものです。だから私ははっきり云って、自分は「これになりたい」と思う目標がないのが本意です。もし、将来これになりたいと思う目標があったら、それに向かって行きたいです。だから自分は今、その目標を見つけるために高校に通っています。けれどもし目標が見つけれられてもその先（未来）はわかりません。それは未来はそこにあるものだと思うからです。だから今は高校に通っているがその先、一年後、二年後そして十年後、二十年後の自分はいったい何をしているかわからな

い。しかし人として信頼され、必要とされる人でありたいと思う。

#### 第39団 皆川 智明

僕は10年後と言うともういい大人になっています。また、10年前と言えば小学校6年生、僕がボーイスカウトを始めたのがこの年でした。この年から、今の自分がだんだん生れてきたのだと思う。ボーイの友達と毎日遊び、色々な事をみんなでしました。

この頃から、市の行事の中・高生部会にも顔を出しはじめてボーイスカウト以外の団体の人と知り合うことになった。この事が僕にとってすごくいい経験になりました。

色々な団体の人と色々な遊びをしたり、学んだり、色々な催しをしたりした。毎日がとても楽しく充実していた。ここでの経験はいまでも凄く役にたっている。また、自分にとって一番大切なものを得たそれは・友達・ここで本当に多くの友達が出来た。

自分が困っている時助けてもらったり、励ましてもらったり、たくさんのことをして貰ったりした。もうその時の友達も10年の付き合いになりいまでも仲良くして貰っている。また、10年後も仲がいいと思う。自分にとっては凄くいい経験をさせて貰い大変感謝をしています。このような素晴らしい経験を今度は10年後自分の手で指導者側から、子供達みんなにさせてあげられたらよいと思います。



#### 〈ガールスカウト川崎市連絡会〉

##### ブラウニー部門 (小1～小3)

- ・わたしは、しょうらい自ぜんの中で、くらしたいです。 65団 平井 陽子
- ・オリンピックの水泳の選手になって、金メダルをとる。 14団 丸山 春菜
- ・動物園のしいく係になって、いっぱい動物にあいたいな。 48団 今津 有梨
- ・わたしはやさしいかんごふさんになりたいです。 32団 天谷 祐菜

##### ジュニア部門 (小4～小6)

- ・空港で地上勤務をし、多くの人と出合い、役立つことです。 31団 小泉 智子
- ・マンガ家になって、ミステリーやたんていを書きたい。 40団 山崎真由子
- ・私はDJになりたいです。GSのことなどを広めたい。 48団 宮森 麻衣
- ・子どもが大好きだから、保育園の先生になれたらいいな。 70団 岩崎あすの

##### シニア部門 (中学生)

- ・私は、保母になるのが夢であこがれの仕事です。 70団 小林 香織
- ・私の夢は、リーダー達のように、幸せになることです。 14団 三澤 麻世
- ・たくさんの、経験・出合いから生まれる私の夢。 65団 鈴木 奈央
- ・私の夢は、保母になることです。勉強をたくさんしてがんばります。

31団 落合 郁子

##### レンジャー部門 (高校生)

- ・動物関係の仕事をしながら、ガールスカウトを続けたい。 17団 伊藤久美子
- ・看護婦になりたい。病気の人達をささえる

仕事をしたい。 40団 南場美智子

・結婚生活と仕事を両立させ、充実した日々を送ってほしい。 17団 治尾真希子

・自然環境保護の仕事をし、生物共存の輪を広めたい。 32団 滝澤 葉子

〈海洋少年団〉

3年 青木さとみ

わたしは早く大きくなって、海洋少年団での活動の中で、手ばたやロープを早くおぼえたいです。そして大人になったらスチュワーデスになりたいです。

スチュワーデスになりたいわけは、ひこうきに乗っているいろいろな国へとんでいきたいからです。そしていろいろな国の人と友だちになって、おはなしをしたり、遊んだりしたいです。そのためにも、今までよりもっと勉強をし、世の中のことをしり、たくさんのけいけんをしていきたいです。

スチュワーデスになれるように、これからもがんばっていきたくとおもいます。

4年 飯島 希

私のゆめは、じゅう医さんになることです。そして、一びきでも多くの動物を助けてあげた

いです。

私ที่บ้านに帰ると、緑がいっぱいの玄関があって、入ると、たくさんの動物が私をまわってしてくれます。食事をするときも、ねるときも、いつも私は動物といっしょです。

朝、私は動物におこされます。私はそんな動物たちに「おはよう！」と云ってあげます。そして、みんなでさんぽにいて、食事をして、出かけるときは、いつも動物が私をみおくらしてくれます。そして、また私はじゅう医の仕事をする。私はこんな日を夢にみえています。

5年 高橋 佳満

学校にいる時、好きな時間の一つに図工があります。今はハンガをほっていますが、クラフトで物を作ったりすることの方が好きです。物を作る中でも特にプラモデルを作ることが好きで、誕生日に買ってもらうプラモデルを楽しみにしています。

作った物をみんなにほめてもらうことがうれしいので、しょうらいプロモデラになれるといいなと思います。そして、ぼくの作品を見てみんながおどろいたり、かんどろしたりして幸せになれるといいと思います。



# 7. 50周年記念事業の記録

## (1) 那覇市視察研修

川崎海洋少年団々長 福田 武雄

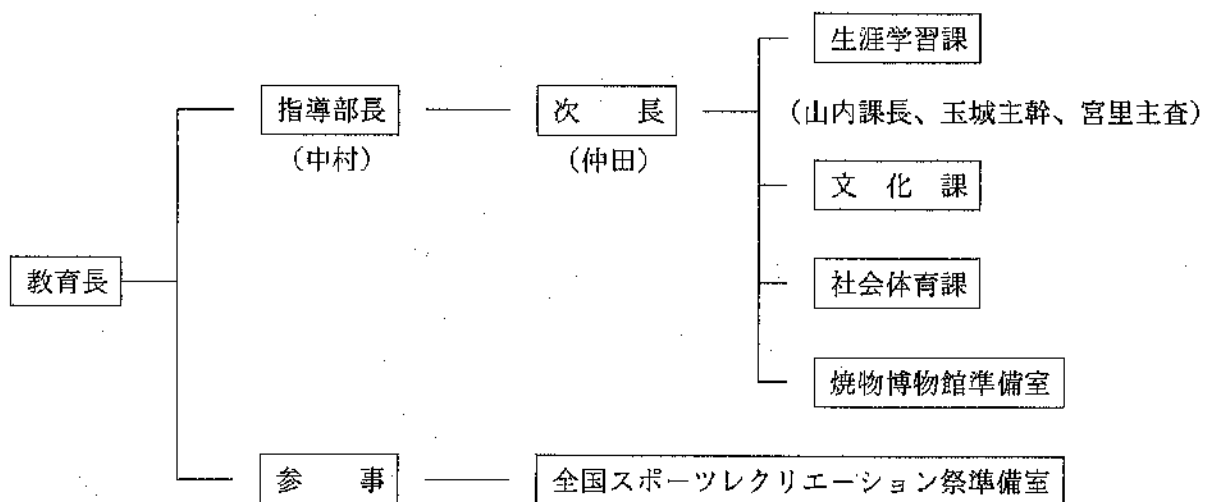
川崎市青少年育成連盟50周年記念視察研修として、1996年5月20日に友好都市提携調印した、人口31万人の沖縄県那覇市へ友好訪問し、青少年教育行政、青少年の団体活動や指導者養成のあり方、青少年施設等を視察し、那覇市との交流を深めることを目的とした。

育成連盟加盟団体である川崎市子ども会連盟、ボーイスカウト川崎地区協議会、ガールスカウト川崎市連絡会、川崎海洋少年団の指導者一同で、那覇市教育委員会へ表敬訪問し厚く歓迎され、青少年関係団体指導者と、10月17日（木）から19日（土）まで交流した概要は下記のとおりである。

### ア. 那覇市における青少年教育の現状と機構について

青少年教育を所管しているのは、指導部生涯学習課であり市内の少年団体の育成として、子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、スポーツ少年団、青少年赤十字等の団体であり、特に地域における子ども会の育成に力点をおいているとのことである。

関係団体への補助としては、子ども育成連絡協議会と、社会体育課で所管しているスポーツ少年団本部へ補助金が交付されているが、小学校区単位で活動していた子ども会については、昭和53年に協議会組織が発足してから交付されるようになったとのことであり、行政としても「子ども会活動の手引き」を作成・配付し、子ども会への指導、助言、相談事業を推進している。



### イ. 石嶺文化スポーツプラザの概要について

那覇市首里石嶺長2丁目に建設されたプラザは、鉄筋コンクリート造地上2階地下1階延べ

面積2,905㎡、総工費10億7千万円で平成8年6月にオープンした施設である。

公民館、図書館、プールからなる地域一体型の複合施設であり、地域コミュニティ形成と生涯学習の拠点として、地域住民に気軽に利用されているとのことであった。

#### ウ. 青少年団体との交流について

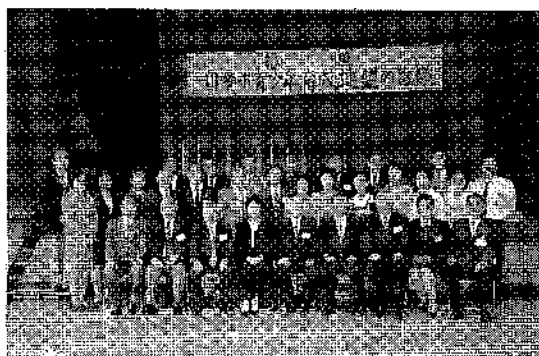
石嶺文化スポーツプラザにて開催された交流会は、公民館長自らの、三味線と歌による沖縄民謡の歓迎を受け、大変感動的な場面であった。

両市各団体の代表者による、団体活動沿革、概要、指導者のあり方、抱えている問題点等の報告をし懇談したが、那覇市各団体の共通する悩みとしては、離島であるので移動する際の旅費、予算面でのやりくり、少子化による減少をどの様に対応し、活性化し育成して行くかが課題であったように思われる。スケジュールの都合上交流時間が短く、各団体個別による交歓も不十分ではあったが、この交流をきっかけに各団体相互間の交流が深まり、発展できることを期待する。

#### エ. おわりに

今回の川崎市青少年育成連盟50周年記念視察研修の実施にあたり、両市教育委員会事務局において、事前準備からの事務調整、現地での受け入れ体制等のご支援等に対しまして、厚く御礼申し上げます。

短期間ではあったが、参加各団体が那覇市の青少年団体と交流を深めることができ、所期の目的は達成できたこと確信し、両市の社会教育交流が益々深まることを祈念して、報告とする。



## 1. 日程表

日 程	10月17日	18日	19日
8:00			ホテル発
9:00		ホテル発	
10:00		那覇市教育委員会	摩文仁の丘
11:00			玉泉洞見学
12:00	羽田空港発	レストラン那覇	
13:00	↓		ひめゆりの塔
14:00	那覇空港着	那覇市石嶺公民館	
15:00			那覇空港発
16:00	東南植物園	守礼の門・首里城公園	↓
17:00	万座毛		羽田空港着
18:00		那覇(ホテル)着	
19:00	那覇(ホテル)着		

## 2. 参加者(25名)

所属団体・役職	氏 名	所属団体・役職	氏 名
青少年育成連盟理事長 (教育委員長)	布川 光明	ガールスカウト川崎市連絡会連絡会長	芦垣 秀代
川崎市子ども会連盟連盟長	中島 忠三	副連絡会長	川浦 恭子
相 談 役	井上 和征	副連絡会長	大屋 ヒサ子
副連盟長	山崎 優	川崎海洋少年団団長	福田 武雄
副連盟長	辻 正人	運 営 委 員	菊地 陽子
副連盟長	米山 敏彦	運 営 委 員	木伏 和子
常任理事	久間 昭司	さくら会会長(元教育委員長)	増子 正宏
事務局次長	木村 英男	(元社会教育部長)	市村 精助
中原区子ども会連合会成人研修副部長	吉野 昭造	青少年育成連盟事務局次長 (青少年教育課副主幹)	西 葉子
麻生区子ども会連合会事務局長	渡辺 利		市川 浩二
常任理事	岡畑 文子	事務局員	佐々木れい子
ボーイスカウト川崎地区協議会会長	堀田 利則		
副 会 長	河合 武夫		
事 務 次 長	町田 良治		

## (2) 子ども合同キャンプ兼子どもサミット

ガールスカウト川崎市連絡会 副会長 大屋ヒサ子

育成連盟が受託している青少年指導者プログラム・県外交流研修（中・高生リーダー研修）で、過去3年に交流し、お世話になった都市（清水市・佐野市・船橋市・八王子市）から青少年を招請し、川崎の青少年との交流（キャンプと意見交流など）を深めることを目的とし、11月22日（金）～24日（日）まで開催された子ども合同キャンプ兼子どもサミットの概要は下記のとおりである。

### ア. 参加者

清水市より5名、佐野市より4名、船橋市より4名、八王子市より4名の青少年と、各々の指導者1名もしくは2名の計22名を迎え、川崎側からは、子ども会19名、ボーイスカウト12名、ガールスカウト10名、海洋少年団3名の青少年に加え役員、事務局、指導者、計30名の総勢96名という参加者で盛大な交流が行われた。

### イ. 内容

9月19日（木）に第1回実行委員会が開催され、日程及びプログラムが検討され、下見、ミーティングなど、青少年が中心となり、綿密に企画が練られ、合同キャンプ兼子どもサミットの内容が深められた。

対面式、仲間づくりゲーム、川崎探検隊、ウォークラリー、キャンドルファイヤー、子どもサミット、さよならパーティーと各々担当が精いっぱい力を出し合い、若い力の中で、楽しい交流、有意義なサミットが繰り広げられた。

川崎探検隊では班毎に青少年の家を出発し、等々力緑地に於て、ミュージアムの見学。アリーナでは小学生のバレーボール大会に声援を送り、競技場ではトラックを走り、若さを発散させ、声援をおくり合うことで交流を更に深めているようであった。

子どもサミットでは「私たちが活動しやすい

施設を考える」をテーマに、班別の討議が行われ、各々の都市の施設の現状を出し合う中で、理想の施設のあり方、また、使用する立場に立って、自分達がどうしたら良いか等も問い直され、有意義な発表が続いた。

### ウ. おわりに

昨年までの県外交流の中で大変お世話になった清水、佐野、船橋、八王子の4都市から、青少年及び指導者をお迎えすることが出来、合同キャンプ兼子どもサミットが盛大に、且つ成功



裏に終了することが出来たことは本当に嬉しく喜ばしいことであり、各教育委員会の事務局の皆様方には、本当にお世話になり深く御礼申し上げます。

他都市は2泊3日、川崎の子ども達は1泊2日という短い日程の中で、青少年が若い力を発揮し、友好を深め、社会を広げ、未来に向かって新しい一歩を踏み出した実感を得、素晴らしい合同キャンプであったと確信している。

4都市との交流が更に深まり、また、他都市、また、広く世界にも交流が深まっていくことを祈念し50周年の記念事業の一つとしての合同キャンプ兼子どもサミットの報告とする。



## 1. 日程表

日程	11月22日	23日	24日
6:00			起床・朝の集い
7:00		起床・朝食	清掃 朝食
8:00			
9:00		8:45 川崎の子ども受付 9:15 開会式・対面式 仲間づくりゲーム	子どもサミット 「私たちの活動がしやすい施設を考える。」 班別会議 ～全体発表会
10:00			
11:00		10:15 川崎探検隊出発 (子ども) ウォークラリー 青少年の家 ～等々力緑地 (ミュージアム、アリーナ 陸上競技場 他) (他都市指導者)	
12:00			さよならパーティー (昼食)
13:00			
14:00		川崎視察 ミュージアム マリエン 川崎大師	解散
15:00			
16:00			
17:00		川崎探検隊帰着	
18:00	スタッフ(役員・指導者)集合	夕食	
19:00	他都市来川 夕食	キャンドル・ファイヤー	
20:00			
21:00	入所の集い オリエンテーション	入浴	
22:00	入浴・就寝	就寝	

## 2. 参加者

- |   |        |
|---|--------|
| (1) 青少年育成連盟役員……布川理事長、中島副理事長、堀田理事、福田理事、金子理事、<br>芦垣担当理事 | 計 6名   |
| (2) 担当事務局及び指導者  | 計 24名  |
| (3) 招待都市指導者   | 計 5名   |
| (4) 川崎市青少年  | 計 44名  |
| (5) 招待都市青少年   | 計 17名  |
|   | 合計 96名 |

(3) 記念式典

川崎市青少年育成連盟創立50周年記念式典

ア 日 時

平成9年2月22日(土) 午後1時30分から4時30分まで

イ 場 所

中原会館(エポック中原)

ウ 式 次 第

(敬称略)

第1部式典 司会 西田 保

開式のことば	副理事長	中島 忠三
あいさつ	理事長	布川 光明
表彰状贈呈	川崎市長	高橋 清
表彰状・感謝状贈呈	理事長	布川 光明
来賓祝辞	川崎市長	高橋 清
来賓祝辞	市議会議長	小島 一也
来賓紹介		
受賞者代表のことば	理事・会計	芦垣 秀代
パフォーマンス	(各団体子どもたち)	
閉式のことば	理 事	福田 武雄
(休憩)		

第2部祝賀会 司会 安藤 徹

開会のことば	理 事	堀田 利則
お祝いのことば	さくら会会長	増子 正宏
乾 杯	(祝賀会出席者)	
閉会のことば	評 議 員	三宅 丈夫

## 8. 表彰状・感謝状受賞者名簿

敬称略・順不同

### (1) 市長表彰状受賞者名簿

中島忠三 西田保 三宅丈夫 米山敏彦  
山崎優 小保方健次 辻正人 (以上川崎市子ども会連盟)  
堀田利則 柏倉秀和 石井章夫 河合武夫  
屋明貞 渡部公 (以上ボーイスカウト川崎地区協議会)  
芦垣秀代 川浦恭子 大屋ヒサ子  
(以上ガールスカウト川崎市連絡会)  
福田武雄 (川崎海洋少年団)

### (2) 育成連盟理事長表彰状受賞者名簿

古徳武 高橋清 山鼻昭夫 上原巖千雄  
小笠原茂春 丸山多美子 竹折恵子 吉沢勘寿  
渡邊利 本池虹児 木村英男 八戸保子  
早坂政次郎 佐久間昭司 (以上川崎市子ども会連盟)  
花形勝 安藤徹 町田良治 町田勲  
(以上ボーイスカウト川崎地区協議会)  
山本瑩子 内藤隆子 西葉子 清水紀子  
(以上ガールスカウト川崎市連絡会)  
菊地陽子 大島敦子 木伏和子 山岡修  
(以上川崎海洋少年団)  
坂谷透 佐々木れい子 (以上育成連盟事務局)

### (3) 育成連盟理事長感謝状受賞団体名簿

ジュニアリーダー川崎 (秋山 聡) J. L. Cたんぼぼ (加賀谷 妙子)  
ジュニアリーダーカインズ (宮野 勇馬) 高津区ジュニアリーダーズクラブ  
宮前区子連ジュニアリーダーズクラブ (加藤 裕樹) (阿久津 岳)  
麻生区子連ジュニアリーダーズクラブ (久野 恵梨子) サンフラワー (各務 裕太)

## 9. さくら会の発足

### ○発足の経緯

戦後、いち早く青少年の非行防止と健全育成に取り組んだ、現在の青少年育成連盟に加盟する各青少年団体は、その活動拠点を「青少年の家」に置いていた。

昭和61年6月、慣れ親しんだ「青少年の家」は改築のために解体着工され、2年間にわたる改築工事がスタートした。

昭和63年3月、新装なった「青少年の家」は、宮前区内宮崎の地にその姿を現し、再び青少年団体活動の拠点として大いに期待されることとなった。

この年の4月8日、7月の業務開始に先立ち、青少年の家開設準備室長の配慮により、青少年育成連盟を代表する方々が、新装の「青少年の家」に集まり、新しい施設を見学する機会がもたれた。

出席者は、当時の増子理事長、中島子ども会連盟長、古尾谷前ボーイスカウト地区協議会長、芦垣ガールスカウト連絡会長、福田海洋少年団長のほか育成連盟事務局である青少年教育課職員と準備室長等の方々であった。

この前年、ボーイスカウトの古尾谷前会長が地区協議会長の職を交代されていたことから、懇談の席上、これからも育成連盟OBとして、育成連盟を支援してほしいと言う希望と共に、これからも機会があるごとに育成連盟に関係した人々でお会いしましょうと言うことになった。

その日（4月8日）、青少年の家の桜は満開であり、懇談の席にも桜が飾られていたことから、集まったメンバーで「さくら会」と名付けた次第である。

### ○「さくら会」の発展

このようにして「さくら会」はスタートしたのであるが、より多くの人々に「さくら会」の趣旨を知ってもらい、そして参加していただく

ために、平成元年4月7日に育成連盟に関係した人々に呼びかけ正式に「さくら会」規約を制定した。

この規約の特徴としては、一つには、構成する人々を育成連盟役員等の経験者と現在の役職員等として、現職とOBにより構成していることである。二つには、運営に係る経費を終身会費として、入会時に1万円とし、その他各種の「さくら会」行事への参加費は、それぞれ自己負担という、明朝会計による運営をしていることである。

「さくら会」の事業としては、総会の他に親睦旅行や食事会などと青少年育成連盟行事への参加があるが、集まるたびに楽しい会話が弾み、また、子どもたちの将来を思う気持ちが様々な方々から語られることが、この「さくら会」を魅力あるものに行っているようである。

### ○現在の「さくら会」

平成8年度現在、会員数は50名である。会長は、昭和63年に発足して以来、初代会長に増子正宏氏に就任いただき現在に至っている。副会長には古尾谷盛太郎、中島忠三の両氏、会計には芦垣秀代氏、監事に市村精助氏に就任していただいている。

平成8年度の事業は、育成連盟50周年記念事業に参加、協力することにしており、沖縄県那覇市への視察研修、50周年記念式典への参加が主な事業となっている。



## 編集後記

月日の経つのは早いもので、育成連盟も半世紀の歳月を重ねました。

このところ時代の変動の激しい中での各団体の活動の状況が少しでも皆様に伝えられ、記録として、資料として活用されれば編集に携わった者として幸いに思います。

今回は、ボーイスカウトが担当しましたが、各団体の多くの方々のご協力・ご支援のお蔭をもちましてどうにか発行にこぎつけられました。

おわりに編集・発行印刷等に関係されました多くの皆様に心から感謝申し上げまして編集後記といたします。

### 編集委員会

担 当 理 事	堀 田 利 則
総 括 責 任 者	花 形 勝
担 当 専 務 局 員	安 藤 徹
”	町 田 良 治

---

---

## 50年のあゆみ

発 行	平成9年2月22日
編 集	川崎市青少年育成連盟
発行人	川崎市青少年育成連盟 理事長 布川光明
印刷所	西桜印刷株式会社
	電話 03(3591)2543

---

---